

もったいない・おかげさま・ほどほどに、が環境と人間を育てる

も う

M・O・H通信

M・O・H communication

40号
2013
Summer

特集:わかものに夢と未来を



十一面観音立像（重文）

けいそくじこうかく
一鶏足寺己高閣一

鶏足寺の本尊と伝えられています。
ヒノキの木造の像で、凛とした姿勢に目を引かれます。

鶏足寺には己高閣・世代閣の文化財収蔵庫があり、多数の宝物類が今なお地域の人々によって大切に守られています。

下の写真は己高閣のある古橋集落の遠景。右手に古橋の民家が見えています。高時川が集落に沿って流れています。



〔己高閣・世代閣〕

〒529-0411 滋賀県長浜市木之本町古橋
TEL.0749-82-2784

●拝観料 500円（2館共通）

●開館 9:00～17:00

（12月～3月は16:00まで）



「M・O・H」のマーク＝牛

牛は環境の象徴ともいえます。牛糞はメタンガスになり、肥料にもなります。大地を作り、食物を育て、生物を養います。私たちは命の源ともいえる、牛を「MOH」のマークとし、循環型社会の象徴とします。

★ M・O・H通信の役割 ★

持続可能で豊かな循環型社会を築く社会人の意識を向上するためMOH通信は情報を発信し交流を続けます

- | | | | |
|---|---|-----------|----------------------------|
| M | → | 循環 | 他人的生命を奪って得たものを使わせて頂く |
| O | → | 共生 | 人は一人では生きられない、環境によって生かされている |
| H | → | 抑制 | 欲はほどほどに、良き環境を作り上げるために |

contents

目次

特集「わかものに夢と未来を」

M・O・H巻頭言

M・O・Hの心で生きる 幸せのみち 森 建司 …… 4

M・O・Hな店 竜王町編

酪農ガールがつくる滋賀県産の本格チーズ 古株 つや子 …… 5

① M・O・H対談

夢、眠り、希望。健やかに育てるための睡眠 大川 匡子 & 森 建司 …… 9

② M・O・H インタビュー 愛農学園農業高等学校

日本の農業に新たな風を “丘の上”の全寮制高校

直木 葉造 & 村上 守行 & 泉川 道子 …… 18

③ M・O・H レポート 天気村

子どもには克服する力がある! 山田 貴子 & 辻 充子 …… 28

④ M・O・H インタビュー せた♪森のようちえん

森で学ぶ“生きる力” 西澤 彩木 …… 35

インターナショナルメッセージ — 独逸

ミツバチからのSOS 原 修子 …… 40

M・O・H インタビュー ミツカン水の文化センター

水をキーワードにした社会貢献活動

後藤 喜晃 & 新美 敏之 & 松本 裕佳 …… 41

M・O・H レポート

あいとうふくしモールに農家レストラン「ファームキッチン野菜花」オープン …… 48

M・O・H レポート くつきの森・山のめぐみフォーラム2013

親子で植えよう、クヌギの木の植樹祭 …… 51

漫画

山暮らし子育て日記 オノ ミユキ …… 55

心温まる物語

虹色の旗がはためく家 今関 信子 …… 57

大津ウォーク 森川 稔 …… 59

環人ネットイベント案内 …… 62

里のお話

花の山 三山 元暎 …… 63

本の紹介 …… 64

講演日記 …… 65

こんな見つけた …… 66

M・O・Hニュース …… 67

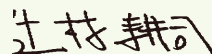
イベント紹介 …… 68

M・O・Hせりりゅう …… 68


通信概要 …… 69

読者の声 …… 70

表紙写真



奥永源寺政所郵便局近くの橋から見る愛知川。夏、透明な流れに子どもたちの歓声が響く。



わかものに
夢と未来を

M・O・Hの心で生きる 幸せのみち

森 建司

もつたいない

すべては一度かぎりのいのち

生物も無機物も時間もそして私も

何ごとも粗末にしない幸せのみち

おかげさま

この世のおかげで私がある

ご恩返しができる幸せのみち

ほどほどに

欲望のままには生きられない

現在も未来も自然も科学も人も私も

共に生きる幸せのみち

M・O・Hの心で生きるのが私たちの幸せの道

未来をひらく唯一の道

働くよろこび 世のため人のため生きるよろこび

それが生甲斐

酪農ガールがつくる 滋賀県産の本格チーズ

古株 つや子

有限会社古株牧場
マネージャー チーズ製造者

滋賀県産のチーズがあるってご存知ですか？ 名神高速道路竜王インターから車で約5分、スイーツショップ「湖華舞」で製造販売されています。両親や兄姉とともにお店を営み、チーズ作りに燃える古株つや子さんにお話を伺いました。チーズのおすすめの味わい方も伝授。

- 湖華舞 本店（竜王町）
- 2013年3月25日

M・O・H
な店

竜王町編

「湖華舞」のミルクが 美味しく変身

古株牧場で搾乳される新鮮なミルクを使って、チーズやジェラード、プリンなどを製造・販売するスイーツショップ「湖華舞」。牛舎に隣接する本店は2005年にオープンし、1階はショップ、2階はカフェとなっており、牧場直営ならではの新鮮な味と雰囲気を楽しめます。

2010年には三井アウトレットパーク竜王店に2号店をオープンし、人気上昇中。

チーズ製造とアウトレット店の責任者を担当するのは、古株三兄弟の末っ子・つや子さん。北海道や酪農大国フランスでチーズ製法を学び、滋賀県産の本格チーズを完成させました。ミルクに乳酸菌を添加して固め、じっくりと時間をかけて完成させるナチュラルチーズで、少しの酸味と新鮮なミルクの味が残り、さわやかな風味が特徴です。

親の仕事つや子さん♡

前職が美容師だったつや子さんは、



つや子さんの名前がついた「つやこフロマージュ」はさわやかな味わい

当時まだ牛舎だったこの地に、新しくお店を始めようとする母・明子さんの誘いに心を動かされました。「楽しそうなこちゃってるな」と思ったのをきっかけに、家を手伝うように。

「実は小さいころは酪農をやっている親の仕事が恥ずかしいと思う時期もあって…。美容師としての道も考えていたので初めは迷いもありました。でも自分の家族を離れたところで見ると家の良さがわかったんです。恋人でも、ちよつと距離を置いた方が長く続くのと一緒に、身近にいた時よりも親の仕事がしっくり伝わってきて、自ら経営するってすごいことをやってきたんやなって思いました」

すでに兄・治明さんや姉・明美さんが酪農やスイーツ作りの部門を担当する中、つや子さん自身も何か作りたいと考え、大好きなチーズにたどり着きました。

しかしチーズ作りは一筋縄ではうまくいきません。県内で先行事例を探すもその数は少なく、経営が難しいと言われていました。そこで酪農がさかんな北海道で農家さんの話を聞き、感じたことは、「道内で生産がちゃんと成り立っている

のなら滋養も同じなはずー」といって。前例がないのは逆にチャンスであるとならえ、チーズ作りを決心しました。

作りたいチーズを求め、半年以上をかけてフランス農家を訪ね、出会ったチーズは山羊のミルクから作るもの。

「フレッシュタイプ（熟成させない粒状あるいはペースト状のチーズのこと）だと爽やかな酸味が残り、熟成するとコクが出て濃厚になる、顔が変わっていくチーズです。そんなチーズに魅せられて、絶対作りたいと思いました！」

フランスを訪ねて学んだことは、シンプルに作るのが最もチーズの魅力を引き出せるということ。

ここ古株牧場の牛さんは、自然の中で田んぼの草花などを食べて育ちます。そんな牛さんのミルクに、余計なものを入らず微生物とミルクの力でシンプルに作ることで、湖華舞のチーズができました。

日常にチーズを

チーズを日本でも日常的な存在にしていきたいと話すつや子さん。

「安く売れないのが現状ですが、日常的に扱ってもらえる食材になっていけばいいな。食卓にあって当たり前の、漬けもんなような存在にしていきたい！」

湖華舞ではフレッシュタイプと熟成タイプの2種類のチーズを提供していますが、おすすめのチーズの味わい方を教えてくださいました。

「フレッシュタイプはマスタードやオリブオイルを加えてサラダのソースとしてどうぞ。そのままでも美味しいですし、コンフィチュールや蜂蜜なども相性が良いです。熟成タイプは口を追うごとに味わいに変化していきます。熟成が浅くフレッシュなものはミルクィ感と爽やかな酸味が特徴です。熟成が進むと味わいに深みが出てきて余韻を楽しめるチーズになります。チーズ＝ワインと思われ方も多いとおもいますが、意外にも日本酒などとも相性が良いんですよ！」

酪農家に生まれて良かった

より多くの人にチーズを好きになってもらえるように、セミナーや体験イベント

トを通して直接お客さんにチーズの魅力を伝えたいというつや子さん。

「石窯や熟成庫を作りたい」といって、よく父や兄から暴走してるって言われるんですが、簡単にできないからこそ、具体的なことを頭の中で考えるようになりました。それと、家族に助けられているこの環境が本当にありがたいです。酪農家に生まれて良かった！」

人を美しく見せる美容師の経験を経たからこそ、チーズも同じようにコーディネートできるのかもしれない。なにより家族のチームワークの良さを感じました。

最後に「湖華舞」の由来を教えてくださいました。

「父が付けただんですよ。湖に華が舞う。なんかかっこいいでしょー！」

自分らしく自然体で、シンプルなチーズ作りに挑戦するつやさんはとてもキラキラしていました。

竜王にお立ち寄りの際は、ぜひ湖華舞に足をお運びください。



① おいしいミルクをありがとう ② おしゃれな外観。テラス席もあります ③ 湖華舞の味を召し上がれ ④ 笑顔がステキなスタッフのみなさん ⑤ アウトレット店の外観

湖華舞食品はうまっ!! 古株っや子

●こかぶ つやこ 1984年生まれ。実家である古株牧場に入社後2009年チーズ作りを開始。翌年、三井アウトレットパーク滋賀電王フードコート内に湖華舞2号店を出店し、店舗責任者として勤務。2012年に渡仏しチーズ研修を受け、帰国後は新たなチーズ作りに挑戦中。

●湖華舞

○有限会社古株牧場 本店

〔住所〕滋賀県蒲生郡電王町大字小口字不動前1183・1

〔TEL〕0748・58・2040

〔営業時間〕 春季 10:30~18:00

夏季 10:00~18:00

冬季 10:30~17:00

〔定休日〕 毎週水曜日

○三井アウトレットパーク滋賀電王店

〔住所〕滋賀県蒲生郡電王町大字薬師字砂山 1178・694

電王アウトレット2F フードコート内

〔TEL〕0748・58・0790

〔営業時間〕 10:30~21:00

〔定休日〕 三井アウトレットパークの休館日(基日)

●通販は「かぶ」

http://www.kokabu.co.jp/

info@kokabu.co.jp

●対談



大川 匡子

滋賀医科大学 睡眠学講座特任教授



森 建司

循環型社会システム研究所 代表

〈わかものに夢と未来を〉

夢、眠り、希望。 健やかに育てるための睡眠

現代の日本人の睡眠時間はどんどん短くなっていきます。さらにストレス社会のためなのか、最近眠れなくなって心身に不調を抱える人が増えていくとよくいわれます。長年睡眠を研究してこられた大川匡子さんに睡眠の役割をお話しいただきました。私たちが思っている以上に重要な睡眠と夢の意義とは？ いじめの背景に睡眠不足!?

■滋賀医科大学(大津市)

■2013年4月11日

◎古より眠りに悩む人多かりき

森 大川先生がいらっしやる睡眠学講座というのは全国でも珍しいんですね？

大川 滋賀医科大学が全国で初めて睡眠学講座を設けました。睡眠というのは単に眠るというだけではなくて、もつともつと深い意義があるのですよ。ほんとうにいろんな意味で眠れない人、不眠で困っている人が多くいます。

森 最近、眠れない人が増えているのでしょうか？

大川 眠れない人が急に増えたかといううと、実は昔からそういう人はいたんで



侘びしきことなり…と訴える平安時代の患者女性(病草紙より)

すよ。『病草紙』という平安時代の絵巻物には肥満の女や口臭のひどい女、痔や幻覚などいろいろな病気が描かれています。その中に「とりたてて痛むところなけれども、夜になると居眠らるることなし。夜もすがら起きて、何よりも侘びしきことなりとぞいいける」と不眠に悩む女がでてきます。12世紀半ばに、すでに眠れないのを病気の一つとしている。つまり、不眠はいつの時代にもある病気らしいと考えられます。

森 平安時代から不眠を病気としていたとは驚きです。

大川 睡眠学として医療・科学・社会学の三つの輪を想定しました。お医者さんや看護師さんなどの医療関係者がほんとうに眠れなく困っている人に関わるのが睡眠医療です。例えば「居眠り病」とも呼ばれるナルコレプシーという病気があります。夜眠っているのに昼間もまだ眠い。脳の中では睡眠物質と昼間に起きているための覚醒物質が本来はシーソー関係になっているのですが、この覚醒物質が足りないのがナルコレプシー。そういう病気であることがわかってきて、



睡眠の総合講座は、医療・科学・社会学で睡眠を診療する

いまは治療法も開発されています。もう一つの輪である睡眠科学では、どうして眠くなるのかを脳のメカニズムとして研究しています。

◎不登校やいじめの背景に睡眠不足の影

森 睡眠学のもう一つの分野、睡眠社会学という言葉はあまり聞きませんが。

大川 社会人の場合、仕事場で眠いと問題です。精一杯働いて眠い人もいるし、



「人も自然の一部です。寝る子は育つ。それでいいんですよ」(大川氏)

残業が増えた、あるいは交代勤務だから眠いこともある。そうすると、働いている成人もいろんな問題に巻きこまれていくわけです。病気になってしまう人もいますし、眠気で集中力が低下すると生産効率が落ちてしまいます。24時間操業にして昼間勤務と夜だけの勤務という風に交代制で同じものを作っていても欠陥商品

が多くなると、社会的な収益が落ちる。その他にも、居眠り運転で事故が起きます。事故が多くなると社会的な問題になる。

さらに居眠り運転のために、例えばイースリス艦の事故やチェルノブイリ原発事故のような、かなり大きな社会的な事故が起こることもある。チェルノブイリでは

事故時の建物の損傷や人々の被害だけでなく、いまだに甲状腺ガンが多くて医療費にものごくお金がかかっている。そういう経済的な損失も発生します。

森 チェルノブイリの事故にも眠りが関係していたとは知りませんでした。

大川 眠りのもう一つの問題は判断力が鈍ることにあります。人間が生きていくためには、朝きちんと起きて昼間は覚醒度を高くして、夜はしっかり眠ることが非常に大切なんですよ。

森 眠ることは個人的な問

題だけではなく、社会的な一面があるんですね。

大川 そうです。最近の子どもについてもみると、夜更かしをしてなかなか眠らず一晩中インターネットなどをやっていて、昼間はコックリコックリ居眠りをする、あるいは遅刻をする。すると、先生に「また遅刻して！」と怒られて、だんだん学校に行きにくくなって不登校になってしまふ。

先ほど社会人を例にして申し上げたような睡眠の社会学的な意義は、まだよく知られていないので、学校の先生方も心理的な面ばかり重視して、いじめがどうして起こるのか考えておられる。しかし、いじめが起こる遠因に睡眠不足があるのではないかと私は思います。ただ日中に眠いだけでなく、子どものうちから睡眠不足になっていると脳の発達が遅れるのです。遅刻したり勉強が得意でない、そういううちよつとしたハンディを背負った子がいじめを受けやすいのです。

こうしたことから、睡眠学に医療・科学・社会学の三つの輪を設定しました。社会にも関わっているし、サイエンスと



「科学の発達で睡眠に影響が…」(森氏)

外来、睡眠障害センターには
関西一円から来られます。

森 最近、睡眠障害に悩ま
される人が増えているん
ですか？

大川 過去にどれくらいの人
が不眠に悩んでいたかにつ
いては正確な調査がないの
で、はつきりしたことはい
えませんが、増えています
ね。昼夜の仕事の時間帯
が変わってきたのは最近
のこと。昔は起きていても
仕事ができないのも、電
気の照明がなかったら見
えないですからね。

森 人間は自然とともに生
きてきた。それが科学の
発達に

よって障害を受けている
わけですね。
大川 そうなんです。電
気がない時代は昼夜の
自然に沿った生活でした
から。

②。夢で脳をリフレッシュ

森 眠っている間にみる
夢はどういうものなん
でしょう？

大川 夢にはそれなりの
意義があるだろうと昔
からいろいろ夢の内容を
調べたりしていました。
しかし、迷信もあって
科学でなかったのです
よ。脳波計の発明によ
って、夢をみている
ときの睡眠が、深く
眠っているのが最近
になって科学的に明
らかになってきました。
夢の睡眠がどうして
分かったかというと、
目がキョロキョロ動
いている、そのときに
起こしてみると「夢
をみていた」という
人が多く。しかし朝
まで全部それを覚
えているかという
と覚えていない
のです。

森 目が覚める直前に
夢をみていると思
っていたんですけ
ど。

大川 レム睡眠とい
って目がキョロキ
ョロ動く睡眠が朝
までに4、5回あ
って、明け方に近
づくほど長く夢
をみます。

森 夢に興味がある
んでしょうか？

大川 はい、夢にも
働きがあります。
なぜそんなに夢
をみているのか、
夢の睡眠がなぜ
あるのかをずっと
研究してきて、い
ろんなことが分
かってきました。
夢は、昼間に何
かやったことを
覚える、上手に
できるようになる
ための記憶・情
報の処理なんです。
例えばピアノを
練習する、

して大学の研究分野にも入
るし、大学病院です
からもちろん患者さん
がおおぜいいますから
診療にもあたるとい
う総合講座として
睡眠学講座を滋賀医
科大学に設けました。

森 睡眠の悩みで滋賀
医科大学に来られる
患者さんは多いん
ですか？

大川 多いですよ。滋
賀医科大学の睡眠

ゴルフを練習する、野球のバッティングの練習をする。でも、なかなかうまくできない。じゃ明日にしようと思える。そうすると一晩寝ている間にうまくならない。朝起きてピアノを弾いてみたら、昨日まではつかえていたところが上手に弾けるようになっていたりするのですよ。ゴルフの石川遼くんも水泳の北島康介くんも、有名な運動選手はだいたい、いい睡眠をとっていますよ。

少し別な方向から見ると、嫌なことがあつても一晩寝ると忘れやすよね。だいぶ気持ちが悪くなる。「昨日はなんであんなにつまんないことを考えていたんだろ？」というように、夢は悪いことを消去する役目もしているのです。

また、夢をみない睡眠も合わせて、睡眠をとれば免疫機能が上がって、風邪が治る。眠っている間に修復するのです。

森 昔は、具合が悪いときは寝ているといわれましたね。

大川 それでいいのですよ。昼間は農耕をして夜は眠るといった自然環境に沿った生活が一番なのです。

どうして「コックリコックリ」するんだろ？

森 戦後から今日までの時代の変化をどう考えておられますか？

大川 人類の歴史という視点から考えれば、いつの時代も私たち人類が受け入れなくてはいけない変化ではありますね。自分たちがそれをしっかりとらえて次の世代へと引き継ぐ、私もその通り道の一人だと思えます。何が問題なのかをしっかりとらえ、問題点あるいは解決策を自分なりに考えて提供するのが役目かなと思います。諦めないことです。

森 孫が「おじいちゃん、将来はどうなるの？」ときくんですよ。親に勉強しろ勉強しろとうるさくいわれるけれど、そんなことをして将来どうなるのかと問われると、どう答えたらいいのか……

大川 何をしたいのか、「したい」という意欲をどこからもつてきたらいいのか、みなさん分からない感じですね。子どもは非常にフレキシビリティ、レジリエンス(『M・O・H通信』39号の鼎談にでていましたね)があるのですが、放つて

おいてそういう力ができるものでもありませんし、いろんなストレスでレジリエンスが落ちていく子どももずいぶん多くなっているんじゃないかと思えます。ですからレジリエンス、つまりしなやかな跳ね返る力が強い子どもに育ててほしい。

子ども自身には、自分のいろんなことをまずよくみて、何が自分にとって楽しいのかを知って欲しい。私の経験からつくづく思うことなんです、自分が楽しいと思うこと、ワクワクすることは一生続くんです。夢をみるのが大事。

森 ここでも夢が大事なんですね。

大川 演劇、体育系、芸術……子どもたちはいくらでも能力を持っています。だから、親がうまくそこを生かしてあげるような環境作りをしたり、一歩を踏みだすときに背中を押してあげることです。何にワクワクするか、なのです。私自身は夢がおもしろいものだと思いますし、コックリコックリがおもしろくて。どうして教室で眠くなるのだろうか(笑)。睡眠の学問って楽しいのですよ。どうして眠るのか？ どうしてそんなに眠たく

なるのか？

子どもがおもしろいと思うものと出会うきっかけを、まずまわりが揃えてあげないといけない。外へ行ってメダカを釣ったり星を見たり、何かしないとワクワクすることに出会えないのです。

森 ただ、大川先生のように自分が興味を持った方向へ進まれて立派に達成されたという例は非常に希だと思えます。私は中学生の頃から小説に興味を持って作家になりたいと思っただんですが、家が商売をしていましたから親父に「丁稚に行け」といわれて、それからずっと中小企業で働いてきました。振り返ってみると親父がいったことは正しかったと思えるんですよ。作家として成功するのは方一つですから、作家を目指していたら今頃たいへんなことになっていたかも(笑)。ところが最近、孫が「作家になる」と言っていて。こういう場合はどうなんでしょうね。

大川 でも、本当にやってみないと分からないですよ。

森 そうですね。だからやってみればい

大川 これではだめだと本人が気づいたら、また別のことを探せばいいわけ。

森 子どもにとつてそういう自由がなくなっているというか、親たちはみんな一つの方向へ進ませようとしているように思えます。例えば一流大学を出て一流企業や官庁に勤めて、社会的に認められ高い報酬を得るのが成功の道だと。

大川 せっかく一流大学を卒業しても就職できない。あまりに就職がうまくいかなくて嘆いてうつ病になってしまいう若い人がかなり増えているのではないか、それがいまの精神科や心療内科などの医者の問題になっています。若者の希望が失われていっているように感じます。やっぱりおかしいですよ。若者の「働きたい!」「何かしたい!」という思いを社会がうまく取り取っていかなくては。制度がおかしいと思いますね。

森 たとえ大企業に就職し、どんな仕事にしても個人の成果がはっきり形になることはほとんどありません。その点、中小企業は自分で考えて自分でできることがありますから、おもしろい仕事もあると思います。

社長をしているときにそんなことを考えて、社内でインキュベーション(起業育成)をやるうと、何かしたい人いろいろなことをやらせてみました。要するに、自分の居場所は自分でつくらないといけない。そこに達成感の喜びがあつて、それが幸せの道になると思うんです。給料は大企業ほどではありませんが。

また、湖北町で大工仕事の復活に一生懸命取り組んでいる清水陽介さんの「どっほ村」があります。3年間月給10万円で大工仕事と農作業を覚えるという条件なんです。証券会社の高給取りだった若者が自分の家を自分の手で作りたいたからと来るそうですよ。

宇宙で眠ってみたい

大川 日本人はものづくりや伝統芸能などの分野で優秀だと思います。すごい力をもっている。若い人たちには、そのことにもっと誇りをもって欲しいですね。

森 まったく先生がおっしゃる通りです。しかし、今日の工業化社会ではコストを下げるための合理化を徹底して、伝統



「おもしろいでしょう〜(笑顔)」(大川氏)

工芸も経済合理性の視点からすると無駄とみなされてしまいます。例えば陶磁器を手で作らなくても、プラスチックなら型を作って流しこんだらできるといふんです。そうではなくて、作り手の個性と夢を注ぎこんだものをきちんと評価して、買う人も作り手の思いを受けとめて多少高くても買う、そういうことが地産地消でできないかと考えています。

大川 私の個人的な経験からいえるのは、日本のすばらしさは一度外に出ないと分からないということ。

森 日本どころか地元・滋賀のいいところも滋賀に住んでいるとなかなか分からない。香川出身で滋賀に住んでおられる作家の高城修三さんに「なぜ滋賀のいいところをもっと知ろうとしないのか」と叱られたことがあります(笑)。

大川 私も東京から滋賀に来て、本当にすばらしいところがあると思います。

森 外から来られた方はみなさん「琵琶湖がきれいだな」といつてくださるんですが、毎日琵琶湖をみて育った人にはそんなものだとしか思えない…。

大川 ですから、外へ行って他の世界の空気を知ること大切だと思います。

人類にとつて一番の外といったら宇宙ですね。私は映画「E.T.」をみておもしろいな、私も宇宙へ行きたいなと思ったのです。そこから宇宙での睡眠に興味をもつて。宇宙に行ったらすごい閉鎖空間だけれど眠れるのか、宇宙飛行士に聞くと、いろんな証言から、やっぱり睡眠が大切らしいということが分かってきました。

それと地上にいる宇宙管制官のシフトワークの問題もあります。24時間誰かがコンピュータの前で見張っていないといけない。宇宙飛行士の命がかかっていますから、ものすごく責任のある仕事です。

森 たいへんな仕事なのに宇宙管制官になりたいという若者がいるわけですね？

大川 ええ、子どもの頃から宇宙に憧れて宇宙管制官を目指す人も多いですよ。

森 そんな世界もあるんですねえ。

大川 自分のまわりだけじゃなくて、外へ目を向けるといろんな世界があるんですよ。

よく食べ、よく働き、よく眠る

森 いままで幸せはお金を儲けることにあるといわれてきましたが、本当にそうでしょうか。先生は幸せとはどういうことだと思われませんか？

大川 希望を持てる社会、夢をもてる社会が幸せだと思います。

森 ひきこもりになってしまふのは夢や希望がもてないから？

大川 そうです。劣等感があって、達成感がない。「俺はもうだめだ」と思ってしまう。「だめだ」といわれればだめになります。親が「おまえはもうだめだ」という。学校へ行ったら先生に「また遅刻して」と怒られる。子どもは家庭と学校以外に出ていく場がどこにもないんですよ。それは子どもの責任でもなんでもない。どこかで褒めないとね。どんな年齢になっても、やっぱり褒められるというのはいぶん違います。私もそうですから。

森 確かに、この年齢になっても褒められるとうれしいですね。部下を褒めることも忘れてはいけませんね。ところで、

経済的な豊かさと幸せの関係についてはどう思われますか？

大川 日本は経済的にトップクラスでもブータンの幸せの尺度では下位でしょう。それに経済的にはトップクラスだけれども、社会進出における男女格差を示すジェンダー指数が日本は世界で非常に低いんですよ。それはおかしい。やっぱり子どもの時の教育で「理数系は男性だ」といつて育てるからそうになっているのだと思います。ジェンダー指数が上位のスウェーデンやノルウェーは寿命が男女であまり変わらない。だいたい日本では女性が長寿だといっても認知症の人も多いですし、長生きしても認知症では不幸です。

森 睡眠と認知症は関係あるんですか？

大川 あります。睡眠が少なかったり不規則だったり長すぎたりすると認知症になる。よく眠ると認知症の予防になります。

これは高齢者に限りませんが、国民健康づくり運動「健康日本21」では、栄養・運動・休養の三つをあげて

「夢を引き出す大人が必要ですね」(森氏)

います。ところが休養を睡眠と考える人が多くて、だんだん睡眠時間が短くなってるのが現状です。休養というと保養所や温泉に行くことだけになってしまふ。とにかく眠ることです。みなさんにはしっかりといいものを食べて、しっかりと眠って欲しいです。





「睡眠障害はお医者さんに相談ね」㊦森氏 ㊦大川氏

■「きぼう」が見る夢

- 編／JAXAきぼう利用フォーラム「宇宙睡眠研究会」
- 発行／宇宙航空研究開発機構
- 制作／京都精華大学機能マンガ研究会
- 内容／JAXAきぼう利用フォーラムの研究会活動を紹介します。「宇宙睡眠研究会」の編成からテーマ提案までを描く。大川先生も登場する。



森 ご飯をおいしく食べて、夜はぐっすり寝られるというのは本当に幸せなことですね。

大川 私は5月に東京へ移りますが、睡眠に悩みがある人は滋賀医科大学の睡眠障害センターに問い合わせてください。

森 今日は大川先生とお話をしているだけでとても癒されました。ありがとうございました。

夢と眠り 大川匡子

●おおかわまさこ 滋賀医科大学精神学講座教授を経て、睡眠学講座特任教授。専門分野は、睡眠、生体リズム、精神医学。日本睡眠学会・アジア睡眠学会の理事長。2013年5月からは精神・神経科学振興財団、睡眠健康推進機構副機構長として活動予定。

勇気
いの壁を打た破れ

森建司

●もりけんじ 1936年滋賀生まれ。滋賀県立長浜北高校卒業。新江州(株)取締役会長。滋賀経済同友会特別幹事、滋賀経済産業協会相談役など。

〈著書〉『吃音はなおる』遊タイム出版、『循環型社会入門』新風舎、『中小企業にしかできない持続可能型社会の企業経営』サンライズ出版、『中小企業相談センター事件簿』サンライズ出版

●滋賀医科大学

〒520-0219 2 大津市瀬田月輪町
TEL 077-548-2111 (代)
<http://www.shiga-med.ac.jp/>

②

M・O・Hインタビュー
へわかものに夢と未来を”日本の農業に新たな風を
丘の上“の全寮制高校

直木 葉造

愛農学園農業高等学校
校長

村上 守行

教頭



泉川 道子

進路指導主事

三重県北西部の伊賀市青山地区にある愛農学園農業高等学校は全国で唯一の私立の農業高校です。緑豊かな丘の上にある校地には広々とした農場と寮があり、生徒全員が寮生活をおくりながら農業を学んでいます。愛農学園の3年間で何を学ぶのか？ 現代っ子の生徒たちの寮生活は？ 日本の農業はどうなるのか？ 農に基盤を置いた人間形成を目指す、特色ある学校教育について3人の先生方に語っていただきました。

■愛農学園農業高等学校（三重県伊賀市）

■2013年4月16日

■聞き手／森建司・辻村琴美



木のかぐわしい香りにあふれた小講堂。
毎朝ここで全校朝拝が行われる

建学の精神



愛農学園農業高等学校の前身である農民塾「愛農根本道場」(後に全国愛農会と改称)が開かれたのは戦争直後のこと。和歌山の農業者・小谷純一が食糧難の時代に、飢える人々のために食糧を増産しようとしたことに始まる。その後、高度経済成長時代に入って農家の後継者不足が問題化したことを受けて、農業を継ぐ次世代の人材育成を目指して1963年に伊賀市青山の丘陵地帯に全寮制の農業高校として創立された。

校内の食材自給率は70%。2011年には食糧自給率向上に寄与する団体を対象にした「フード・アクション・ニッポンアワード2011」でみごとに大賞に輝き、そのユニークな学校運営が各方面から注目を集めている。今年、学校創立50周年の節目を迎えるにあたって、校舎を改築し図書館を新たに建設するなど施設のリニューアルも進行中だ。

愛農学園は1学年1クラス。1学年約20人の生徒たちは学校と寮で寝食を共にしながら、丘の上の広々とした校地で3年間農業を学ぶ。

神・人・土を愛する

森 最近、農業をやりたいと志す若者が増えてきていると感じています。愛農学園の入学志願者も増える傾向にあるのではないですか？

直木 志願者は特に多くなっているいません。

森 そうですか。私たちのような中小企業でも、土に帰る、自然ともっと関係の深い仕事をやりたいという気持ちは強くなってきたのですが。

直木 確かに、20年前までは農家の子どもがほとんどでしたが、最近は農業とはまったく関係のない家で入学してくる生徒の方が多くなっていますね。農家ではないけれど、農業に関心をもったり農業で生きていきたいと思う人が少しずつですが増えているには思います。

辻村 まず、愛農学園の教育方針についてうかがいたいと思います。「神・人・土を愛する学園」というキャッチフレーズを掲げておられますが、これはキリスト教の信仰に基づく教育ということでしょうか？

直木 「神・人・土を愛する」という三愛精神は北欧デンマークの思想なんです。デンマークはイギリスで起こった産業革命を冷静に評価して、工業立国を目指す農業立国で平和主義の道に進むことを選びました。そういうデンマークの農民の思想を、明治・大正時代の思想家・内村鑑三や神戸生協の創始者・賀川豊彦たちが日本に紹介したのが三愛精神です。たとえ工業化が進んでも本質は農業にある、持続可能な農法が一番の基本だという思想がデンマークにはずつとある。だから21世紀に入っても、北欧の人たちは極端な工業化に走らない。それに対して、日本の社会はかなり揺れ動きました。農業者もそうでない人たちもたいへん大きく揺れ動いて、はつきりした価値観をもたないまま浮遊しているような弱さが日本社会全体にあります。江戸時代まではそうではなかったのですが、明治維新後に富国強兵を掲げてどんどん工業立国へと走り始めた。農業はお金にすぐ替わらないものだから置き去りにしてしまっただけです。そういう世相の中で、愛農会は三愛精神に基づいて農業の大切

さをずつと言い続けてきました。森 日本人は確かにずつと農業を疎かにしてきましたね。

直木 愛農学園の精神的なルーツはそういう北欧の思想にありますので、一時的な思想の変化に左右されない生き方をしようとしています。ところが、そこに価値を置いてサポートする体制が日本では希薄で。政府も減反など農業自給率が減るようなことばかりやっていて、いまのTPPの問題もそうですが、もう少しちゃんと農業者自身が納得して歩むような仕方と政策を進めないといけないと思います。それは日本社会の農業に対する価値意識、そして基本的な人間としての有り様に対する日本人の意識が低いからです。デフレ脱却とかいろいろいっていますけど、日本社会全体がお金を儲けることばかりを優先して、お金に支配された生き方に流れていっている。そうした中で『M・O・H通信』の発想は非常に大事だと思います。

農業者たる前に人間たれ

村上 愛農学園も初めは後継者育成と

いうことで近代的な食糧増産を含めた方向性でやっていました。

直木 実は、小谷は最初、金儲けの農業をやらせようとしたんですよ。農業者が生き甲斐をもって農業をやるためには、やっぱり所得が上がらないとやる気にならないからと考えて。

村上 しかし、農薬や化学肥料の問題がでてきて、命を大切に作る有機農業に転換しました。そこから持続可能性や循環型、環境に配慮した方向性へと変化してきたのです。

直木 本当の意味できちっとした価値観をもって、人間同士が愛し合って平和に生きていく農民を育てなくては、いくら農業教育をしても結局は目先のお金を得ることに流れていってしまいます。農業にしろ化学肥料にしろ、とりあえず労力をかけなくて儲かればいいという発想になってしまったのは間違いです。人間をお互いに大事にして、自然界とも共生して一緒に生きていくためには、やたらに農薬をばらまいたり化学肥料で他の生き物が窒息するようなやり方は、農業といえども問題だと、開学して10年、



「丸ごと受け入れるとホッとする関係が」
(直木氏)

15年ほど経った頃に創始者の小谷純一が悔い改めて有機農法へと大きく方向転換したんです。

森 いま学校でやっている実習は有機農法なんですか？

村上 そうです。

泉川 無農薬・無化学肥料でやってます。夏の雑草はものすごい数。腰をかかめてする雑草駆除は重労働で、いまのお子さんにはたいへんな苦労なんです。森 種が付着した紙を敷いたら、そこから稲が生えてきて雑草を取らなくてもいいという商品があったと思います。

村上 ペーパーマルチですね。費用がかかるんですよ。それに環境に負荷がかかるという問題もあって、今はやっていません。森 なるほど、そう簡単ではないんですね。

村上 お金儲けのために農薬や化学肥料を使って、それで人の命を損なっていく、地球や環境が汚染され破壊されていく、それでいいの。あるいは原子力のように、いまの生活を便利にするために将来にゴミやツケを回していいの。それをあなたの良心に問いかけたときにどうなのかというスタンスに立つて教育をしています。

「農業者たる前に人間たれ」というのが本学の基本です。キリスト教の価値観・理念をもって、良心に従った生き方をすること、良心や愛に価値を置いた生き方を生活していく中で教育を通して伝えたいと考えています。

直木 現代の日本社会では、子どもたちは農業に誇りをもたないんですよ。とても良心的にいい農業をやっている農家の子どもたちでも、ここに入ってくる前は自分の家の農業に誇りをもっている子ばかりありません。しかし、そういう子どもたちでも本学で学ぶ中で変わります。親を尊敬するようになる。農業に対して非常にしっかりした価値観が、愛農学園のあるこの丘全体の空気としてここを包んでいるんです。そこへ入ってきて先輩

が一生懸命やっている様子を見て、子どもたちの価値観はどんどんいい方向に戻ります。

全寮制が育む、おもいやり

辻村 全寮制なのは「神・人・土」の三愛精神における「人」を重視してのことですか？

直木 全寮制であることは農業教育をする上で非常に大きな意味があります。牛や豚など動物の世話を例にとっても、ここに暮らしていることが大事なんです。愛農学園の生徒の場合は朝・晩の管理ができる。それは「しなくてはいけない」ではなくて「できる」なんです。通学

「丘の上の高校の本ができないかしら？」
(泉川氏)



生だと朝6時に学校へ来るわけに行かないけれど、ここは起床して5分で農場へ行けるので、朝・晩の管理が自然にできます。特に出産のときは夜中でも世話に参加できる。自分が直接その場になくても仲間の誰かが仕事をするときもあるし、自分がするときもある。そうやって寮から必ず誰かが行って世話をしている。24時間この空間で暮らしているから、農業の営み全体の様子を肌で感じられるのです。

全寮制であることの意義でもう一つ大切なのは、おっしゃる通り人間同士の深い交わりをもつことができることです。本当の隣人愛とはどういうものかを聖書をもって考えさせるわけです。寮生活では気の合う者同士だけ付き合うとか、わがままを通すことはできません。自分中心の愛ではなくて、どう自分を大事にしながらか相手も尊重して共に生きていくのか、それを考えるには特に思春期が一番タイムリーで、大学生では遅すぎるんですよ。大人になると人間はずるくなつて嫌な人と付き合わなくなる、距離をとるようになる。高校生だと裸のままのぶつ

かり合いになって、しょっちゅう喧嘩をする、ですけどごくおもしろいやりをもってお互いを支え合っただけです。

森 昔は住みこみで丁稚奉公に行ったり、軍隊に入ったり、お坊さんになるためにお寺に修行に行ったりといった修業時代を送って、自分を捨てて何かを身体で覚えて社会に出ていった。そういう経験がいまはなくなって、自分に凝り固まっているから社会に出てもうまくいかない。その点、愛農学園のように中学を卒業した時点で寮に入るのはすごくいいことですね。

直木 ここは本当に裸の付き合いですからね。風呂も一緒、食事も一緒、寮も一緒、農場でも一緒、教室も一緒。教室は1学年1クラスしかありませんから3年



「良心に訴えて考える力を」(村上氏)

間ずつと一緒。逃げたくても逃げられない。最終的には相手を丸ごと受け入れないとやっていけないし、丸ごと受け入れようになるんですよ。

個性は人それぞれ。ある子は鈍いかもれない、口べたかもしれない、短気かもしれない。それでも最終的には、それぞれの個性が全体で調和して、ひとりひとりが大事な存在となるんですよ。その子がいてくれてみんなが助けられる、そういう状態になります。そして、自分を飾る必要がなくなる。自分を飾ると無理することになって、それでは保たないです。自分も相手もありのままを受け入れざるを得なくなつて、それでお互いがホツとする。

だけど、それも次元的にみると平面的なんです。そこに聖書をもたせることによつて3次元的な意識をもたせます。聖書の言葉は最も公平なものなんです。だから、その前に立たされれば全員、大人も子どもも関係ない。全員が同じ言葉に向き合われます。

辻村 いまの世の中には、聖書のような指針がないんですよ。





① 2年生の鶏の解体の授業風景。1時間半で15羽の鶏を解体した。今晚の寮でのご飯に使われる ②③ 養鶏部では毎日卵を詰めて出荷する。出荷のために卵を一つずつきれいに手作業で拭いている。平飼いの卵は特に人気 ④ 豚舎内の雄豚 ⑤ 養豚部では、豚の飼料を配合して豚舎へ運ぶ作業中 ⑥ 産房豚舎の子豚たち ⑦ 野菜部のハウスではトマトの苗の移植準備 ⑧ 稲の苗作り作業実習 ⑨ 2年生がトウモロコシの種を蒔いて苗作りの実習中 ⑩ 昼食後ゆっくりと草を食む乳牛たち(愛農では18頭の乳牛から朝夕ミルクを搾る) ⑪ 無農薬で育てるブドウの枝の害虫防除作業



泉川 多様化しすぎているんでしようね。動かないものというのがなくて、いろんなところに土台が置かれていて。土台と思っていたものが動いてしまうから、みんなが漂流している氷の上に乗っているみたいなもの。その点、私たちは動かない岩の上で教育活動をしています。そういう意味で聖書はありがたいですね。

直木 例えばアメリカのように戦争ばかりやっている国。聖書の前で宣誓して大統領になるのに、なぜあれだけ戦争をやめるのか。だから聖書を手渡されようが、学校に聖書があろうが、下手をすれば人間というのはいつでも失敗をする。それぐらい愚かなんです。だからこそ謙虚になって、どうやって本当の平和をつくり続けるのかを考えさせる。農業によってそういう生き方の一つを身体で学ぶ、そういう空間にしようとしています。現実はその単純じゃないですけど。



命の大切さを
「いただきます」から学ぶ

辻村 携帯もゲームも禁止ですか？

直木 はい、携帯とゲームは禁止です。親が持たせて放任した結果、生徒の中にはゲームに依存する神経のネットワークが脳の中にできてしまっている子もいて、生身の人間同士の付き合いができない、自分さえよければいいという生徒が増えてきているのが問題。ここで生活して少しずつ中毒症状が抜けていきます。

泉川 携帯やゲームをやっている間に失われてしまうものも多いと思います。夕焼けを見てきれいだなと思ったり、朝に鳥の声を聞いて季節を感じたり、そういうことはゲームは教えてくれない。感受性の強い青年期だからこそ、培われる感性が育たないのです。ですから、ゲームや携帯を持ちすぎたら取りあげるのが大人の務めだし、ご飯を食べている最中でもそれを持っているんだつたら取りあげるのが大人として当然のことだと私は思います。日本のようになんでもやりたい放題にしている社会は、子どもにとつてすごい迷惑だと思いますね。

直木 農業は平面的な画面に映っている世界とは全然違いますから（笑）。全部、生身の命のあるものと付き合うのが農業

草ボウボウのグラウンドで元気に体育の授業に取り組む生徒たち



ですからね。

泉川 鶏の解体を愛農学園の高校生全員が経験します。昔は農家の人は誰でも普通にしていたことだと思うんですが、生きものを殺すという経験をしないが故に、いまは「死ね」とか「殺せ」とかいう言葉がたくさんでるのではないかと思います。

愛農学園には野菜部・作物部・果樹部・酪農部・養豚部・養鶏部の6部門があるのですが、1年生はローテーションで全部の実習をします。ですから、全員が養鶏部で鶏を殺す。養鶏部の先生は屠殺する前に「いまから命をいただくんだよ」と生徒に言葉をかけて始めます。頸動脈にナイフを当ててそれを切つて血が出て、生きていて温かった鶏が冷たくなつていつ、血抜きをして肉になるまでを体験するんです。命を本当に大事にするという意味で、それはとても大切な教育だと思います。鶏の解体を体験した生徒は作文や意見発表で「いただきますの本当の意味がわかった。いままで何も考えないで食べていたけれど、こうして自分のために命が失われることによって自分は生かされているんだと知った」といい

ます。むやみに生きものを傷つけるとか、友だちをナイフで切るとか傷つけるとか、そういうことの愚かさが本当に分かるんじゃないかと思えます。これは私立だからできることではあるんですが。

1000年持続村づくり

森 とここで、私たちは日本で作られたものを愛して食べる、消費者に地産地消の意識をもってもらうように運動しているのですが、そういう動きをどう思われますか？

泉川 滋賀県というと近江商人ですね。滋賀県は創業1000年を超える老舗企業の率が全国でも屈指の高さですね。近江商人のように長い目でのをみることに、私たちが目指している動かないものに視点を移すことは考え方として関係があると思います。

森 最後に、T P Pの問題など日本の農業を取り巻く状況がますます厳しくなると危惧する声もある中で、愛農学園としては今後どのような取り組みをされるのでしょうか？

泉川 「1000年持続」です。

辻村 1000年!?

直木 愛農会が「1000年持続村づくり」をスローガンに動きだしているんですよ。地元に戻返しをするというのが、愛農会のまず今後50年の目標です。このあたりは基本が農業という地域なので、農を一つの基盤として生きていけるように、少しでもこの地域のお役に立てるような歩みをこれから具体的に始めたいと考えているところです。学校周辺は高度経済成長期に大阪のベッドタウンになつてしまつて、地域との結びつきが切れてしまいました。

これはまだ私が勝手に考えていることなんです、高校で農繁休暇を設けて、この地域で若者の手を必要としている農家へ農繁期に愛農生を送りだす。学校の農場だけでなく、地域の農業の手伝いをさせていただく。そうやってもう一度、地域とつながり直したいと考えています。

泉川 それと、もつと女子の入学希望者が増えて欲しいです(笑)。

森 実際に愛農学園にうかがつてみて、



「コケーコッコッコ」「モォ〜」「プププ」「ニャーン」「ワン」風の音の中に学生笑い声が耳をくすぐる丘の上にて（泉川氏、森氏、直木氏）

本場に気持ちのいいところですね。
辻村 若いみなさんが「こんにちは」とごく自然に笑顔で挨拶してください、すばらしいです。
森 こういうところで教育を受けた生徒さんたちが日本の農業の未来を担っていくと思うと心強くなりました。

直木葉造

● なおき よしぞう 1953年北海道小樽市生まれ。基督教独立学園高校卒業後、大学、大学院（農学部）で生命科学の学びの後、向中野学園（現在の盛岡スコーレ）高校の理科教諭・教頭として勤務。その間1993〜1996年まで北欧のキリスト教全寮制学校教育研究のためノルウェーに留学。帰国後3年間キリスト教幼児教育に関わる。2000年4月より現在まで愛農高校に勤務。2012年より校長。

月刊 愛農

- 発行/社団法人全国愛農会
三重県伊賀市別府740
- 価格/525円・送料100円
- 購読/6250円/年(含送料)
- 郵便振替
00980-7-120442
□座名/社団法人全国愛農会
- ゆうちょ銀行 記号12260
番号27260021
□座名/社団法人全国愛農会
- 内容/農を愛する人たちへ。有識者へのインタビューや市民活動を幅広く紹介する。



村上守行

土を愛し
人を愛し
神を愛する

● むらかみ もりゆき 1961年生まれ、福島県あぶくま地方育ち。三重大学農学部卒、ボストン大学大学院宗教研究科修士課程修了。帰国後、実家で有機農業を引き継ぐ。東日本大震災により東海地方に避難。2012年より母校愛農高校で作物と教頭職を担当。

誰にもできない、
高校生活が君を待っている！
泉川道子

● いずみかわみち 1967年京都市生まれ。くらしき作陽大学音楽学部卒、アメリカミネソタ州セント・オラフ大学卒、同州ルター神学校礼拝音楽学修士課程修了。帰国後熊本県にて聖書科非常勤講師を経て1998年より愛農学園農業高等学校に音楽科及び聖書科教諭として勤務。母方は彦根市で代々医師、歯科医をしていた中嶋家。

● 学校法人愛農学園農業高等学校
〒518-0221 三重県伊賀市別府690番地
TEL 0565-102-0321
<http://www.ainou.or.jp/gakuen/>



③ M・O・Hレポート
〈わかものに夢と未来を〉

子どもには 克服する力がある!

山田 貴子

NPO子どもネットワークセンター天気村 代表理事

辻 充子

NPO子どもネットワークセンター天気村 事務局長

● 自然保育から社会を変える

草津市に13もの事業展開をして精力的に活動しているNPO法人「天気村」があります。その出発点となったのは、自然の中で子ども同士で思い切り遊ばせようという保育園でした。自然の中で遊ぶことで子どもはどう変わのでしょうか。保育園から幅広いソーシャルビジネスへと発展していった経緯と合わせて、天気村を20年以上にわたって二人三脚で運営してきた山田貴子さんと辻充子さんにじっくりお話をうかがいました。

■天気村 こんぺいとう自然保育園（草津市）

■2013年4月11日



木のぼり、サイコー。こわいけど楽しい～！

地球は遊び場だ！

天気村の活動の中心である「こんべいとう自然保育園」が始まったのは1990年。1970年代後半に草津にも都市化の波が押し寄せて子どもたちを取り巻く社会状況が大きく変化し、やがて不登校などが社会問題となった頃だ。山田貴子さんは「いつのまにか子どもらしさが失われしまっている。子どもには子どもの時間をもたせていかなくては」と痛感していた。スイミングや体操の教室に通って運動が得意なはずなのに、下り坂が歩けずに転んでしまう子。他の子どもと遊ばずお母さんの顔色ばかりうかがっている、いわゆる「指示待ち」の子。そんな子どもを自然の中へ連れて行くと、帰る頃には来たときとは表情がまったく違って生き生き輝いているのだ。

「転んだりして擦り傷ができるかもしれない。でも、自然の中で遊んで何かを克服したときの達成感のある笑顔は違うんです！ 現代の教育現場は『安全』『安全』とそればかりにこだわって、子ども同士、そして子どもと自然との関わりを断ち



仲間・空間・時間

切ってしまったっている。でも、子どもにはもともと克服する力があるんですよ！」
教育の現状に疑問を感じた山田さんは、子どもをもっとのびのびと自然の中で遊びながら育てる場をつくらうと「地球は遊び場だ！」をキャッチフレーズに「こんべいとう自然保育園」を始めた。
2歳半からを対象にした認可外保育園で、週に3回バスで子どもたちを連れて草津周辺の公園など自然体験ができるフィールドにでかけている。この20年あまりで卒園生は1500人を超え、地域にしつかり根付いている。

「山へ行くと花が一生懸命咲いている、鳥が一生懸命鳴いている。そういう感性が自然の中で遊ぶことで育てられるんです。子どもたちのおもしろいものをキャッチする感性や力はすごいんですよ！ 枯れた棒きれ1本を『なんか楽しそうだな』と拾う。そこからイメージがどんどんふくらんで次に丸い石を拾うと、その子には車に見えてくるんです。そのうち

他の子がおもしろい形の葉っぱをみつけたら、それをくつつけて『あ、うさぎさんになった！』とかね、また全然違ったものになったりするんですよ」

世の中にあふれている「100%完成されたおもちゃ」は、それでしばらく遊んだらおしまい。遊びが広がっていかないものが多いと山田さんは指摘する。自然の中で育まれた想像力は、その子どもが成長して若者になったとき、生きていく上での支えになると山田さんはいう。

「子どもが『遊び込んで』なんでもおもしろいよ、なんにもなくても遊べるよという力がつくと、若者になったときに社会が不況でたいへんだとしても、何かを楽しさやおもしろさに変えていける。それが他の人たちと一緒にやっていくという力になって前に進んでいけると思います。そのために、私たちは環境、つまり『仲間・空間・時間』だけを与えてあげる。あとは子どもたち自らが仲間同士で克服していく体験をもつんです。『なんとかなるんだな』『できた！』『楽しいな』という体験の場を私たちはつくつていかないといけないと思います」

ほおら～、シーズンになっちゃった

「お～えす、お～えす」力もちダイ





2000年を迎えたとき、1000年ミレニアム構構がひらめいた
(山田氏)

棒一本で想像したものだけでなく、仲間がもっている石や木を合わせたら、自分が考えつかなかったような、もっとおもしろいものができた。一人では登れそうもない坂が仲間と一緒になら、転んで膝小僧をすりむきながらもなんとか登れた。山や川にこそ仲間と体験を共有できる場がある。だから、自然の中で子ども同士で遊ぶ時間を大切にしたいと山田さんは考えている。

「例えば石を川にポチャンと投げて、石と川がどこかでつながっていると感じた

り、死んだ生き物を食べている他の生き物をみつけて、その様子をじつとみたとときに自分の中で何かがピタッとくつつく瞬間がある。自然の中ではいろんなものが互いに関連していることを知って、どんなこともつながっているんだという頭が小さいときにできます。そうするとその子ども

が大きくなったとき、例えば環境問題について、地球の裏側で遊ぶこともできない子どもがいるんだとか、すべてのものはつながっているんだという想像力のある大人になると思います」

保育園を始めてまもなく、子どもの育児から手が離れて漠然と何かしたいと考えていた辻充子さんが天気村を訪れた。

「子どもが自然の中で遊ぶことによつて、すごく変わるのを目の当たりにして、自分の子育てについて考えさせられたし、人生観が変わりました。自分ができない

ことを誰かに委託したりして、少し無理させてでも子どもができることを広げたり伸ばしたりさせたいと願うのは親なら誰でもあることだと思います。でも、そうではなくて子どものあるのままを受けとめる姿勢を親にも学んでもらいたいなと思います」

そう話す辻さんは山田さんの姿勢に共感して子どもに対する見方、そして自分の生活を見つめ直した。山田さんの活動に合流した辻さんは、山田さんと二人三脚で天気村をさらに大きく発展させていくことになる。


いいことも、悪いことも、
喜びにかえて

こんべいとう自然保育園の活動を通してみてきたさまざまな社会的な課題により広く対応しようと、山田さんと辻さんは1999年に子どものサポートを中心として、ひとつくり・まちづくり・環境づくりに取り組む「NPO子どもネットワークセンター天気村」を設立。2007年には、こんべいとう自然保育園の



子どもたちが「ふるさと」として帰郷できる場にしようと、大津市葛川細川町にある築150年の茅葺きの古民家を購入して「古民家Zutto再生プロジェクト」を立ちあげ、ボランティアの助けも借りて自分たちで改修した。

夏休みなどに古民家Zuttoで子どもたちの合宿を企画。かまどでご飯を炊いたり川遊びをしたり、あるいは親子で泊まりがけで細川の暮らしを体験する「古民家Zuttoの会」で日本蜜蜂の巣箱づくりも。体験プログラムは細川の

地で昔から伝わってきたことだけにこだわっている。ただ単に楽しい思い出づくりを目指しているのではないというところが、いかにも天気村の流儀だ。山田さんは笑いながら次のように話す。

「普通はこういうところはきれいに手入れして『田舎暮らしはいいなあ』で終わるんだけど、自然と共生するってそんなもんじゃない。いろいろな事件があつてね…生物多様性ですから野生動物に畑を荒らされたり昆虫に食べられたり、柿が美味しそうにみえたけれど採ってみたら渋柿だったとか。でも、夕日がきれいなんですよ。いいことも悪いこともある、その両方をここで体験して欲しいです。いいこと悪いことどちらも経験して、自然はすばらしいな、自然と共生して暮らしていきたいな」と思っていて欲しいです」

NPOで職員を雇用できますよ(辻氏)



自分のことは自分でしましょう。古民家だぜ〜と

保育園と古民家再生。一見まるで無関係な二つのことが山田さんらしい発想でピタッと合ったわけだ。一軒の古民家を保存するに留まらず、山田さんと辻さんは自然との共生や地域の活性化をも視野に入れていた。そしてもう一つ、保育園とはまったく違った分野だが、彼女たちの目の前に課題として浮かびあがってきたのが高齢者問題。そこで認知症対応型のデイサービス「てるてる元町」の運営を始め、お年寄りとかんべいとう自然保育園の子どもたちが交流して遊ぶ場もつくっている。ひとは生き「てる」だけで光つ「てる」という意味をこめたネーミングだそうだ。



♪ボンぼこ山の～♪歌声も大地のBGM。三上山を背に国史跡大岩山古墳群を探検

暮らしを デザイン

二人の興味と課題はまるでアメモーバのようにさまざま。なジャンルに向かって自由にとんどん広がっていく。ということは、もちろん次なる展開も？

「例えば古民家Zuttoでは、たまに遊びに来て『楽しいな』だけでなく、雪が多いときは毎日雪かきしないといけない、そういうたいへんなことも知って欲しい。現代は親も子ども、いいとこ取り、しようという傾向があるけれど、自分たちが汗をかいて勝ちとった人生はいい

ことだけでなく悪いことがあったとしても悔いが残らないと思うんです。そういう人生を親にも送って欲しい。親も学び直す場が必要だと感じたので『暮らしデザイン塾』を2013年5月から始めます」と辻さん。

具体的にはデジタル機器の講習や情報発信の仕方、さらに天気村の事業を次々にビジネス化してきたマネジメントのノウハウまでを伝授する予定。目指すのは、こんぺいとう自然保育園の親や若者たちが自分らしく働くための支援。いまの時代に合ったスキルを身につけて、自分の個性や力を活かせるような小さなソーシャルビジネスを立ちあげ、無理なく働く環境を自らつくって欲しいという。

暮らしデザイン塾とはまったく別に天気村としては寄付の受け皿となる「ファンドレイジング」の新たな仕組みをつくることに向けて勉強中だ。ファンドレイジングとは、例えばコーヒーチェーン店の発行したカードを使ってコーヒーの支払いをすると代金の1%が何らかの社会貢献活動に寄付されるといような仕組みのこと。天気村の活動に共感した人が



淡海のつなぐひろくみらい賞をいただきました

より気軽にできるような寄付の形を考案したいと山田さんたちは考えている。「私たちと出会ったことで暮らしの中のちよつとしたことが変わる、それでいいんです。力になりたいと寄付してくれたら、一緒にやりたいと力を貸してくれたら、そうやって少しずつでも社会は変わっていく。大学を出ても就職ができないと悩む若者が増えているけれど、みんな

「何か」をもっているんですよ。それを組み合わせれば、行政や政治とは関係なしに社会は変えられるんです！」
 そう話す山田さんの言葉には、さまざまな課題にチャレンジしてきた人ならではの迫力があつた。会社に就職することだけが仕事ではないという若者へのメッセージが胸に響いた。



心とからだはいつも天気村



「てるてる元町」人は生きてる、光ってる goodネーミング

丈夫な頭と賢い、
 身体、

山田貴子

●やまだたかこ「草津市出身。1987年天気村設立。いつも自然のこと、いのちのこと、つながることを考え、頭の中には不思議でいっぱい。こども達の豊かな感性と一緒に哲学している。大切にしたいのは、「志」と「じよつぶな頭とかしい身体」。

めざす
 NPO滋賀の母

辻 充子

●つじみつこ「天気村事務局長として13年。1999年は5事業だったのが、今では13事業の事務局をまもっています。目指すは現場感覚をもった事務局長としていつも現場の問題を意識する「NPO滋賀の母」になりたいと思っています。

●NPO子とモネットワークセンター「天気村」
 〒526-0003 草津市東草津1-1-15
 TEL.077-564178008
<http://www.biwako.ne.jp/~nt-tenki/>

森で学ぶ”生きる力“



西澤 彩木

せた♪森のようちえん 保育者

● 昨春、大津市瀬田で産声をあげた保育の小さな試み。園舎をもたず、森の中が保育現場という「せた♪森のようちえん」はいままでの幼稚園とはどう違うのか？ 子どもたちは森の中でどのように過ごしているのか？ 雨の日は？ そして、森のようちえんで目指すものとは？ たくさんの疑問を胸に、瀬田で森のようちえんを始めた西澤彩木さんを保育現場のひとつである公園に訪ねました。

■びわこ文化公園（大津市）

■2013年4月11日

 ウグイスが、カマキリが、スズメバチが

「ウグイスのさえずりが聞こえてきたとき、ある子がホーホケキヨの前のホホホを『いちにーさんしーつて数えてるー』って言ったんですよ。大人には考えつきませんよね。子どもの感性ってなんてすてきなんだろうって胸がキュンとしちゃいました」

そう笑顔いっぱい話す西澤彩木さんが案内してくれたのは「せたり森のようちえん」が主な活動場所としているびわこ文化公園の一角で、山すその木立に囲まれた小さな広場。この日も高い木立の梢から小鳥の澄んださえずりが聞こえ、あたりはすがすがしい針葉樹の香りに包まれていた。公園の中といっても、そよ風がときどき草木を揺らす音が聞こえるだけで深い森の中にいるように静か。

「幼稚園内で子どもたちが出逢うもの何倍ものインパクトで、子どもたちは毎日森の中でいろんなものに出逢っているんですよ。丸太をペロツとめくったらものすごい数の蟻がワーツと出てくるとか、

たまたまカマキリが卵を産んでいるところをみつけて、みんなでジーツとみたりとか。カマキリの卵なら園内でもみられますけど、産んでいるところはなかなかみられませんからね」

聞いているだけで、こちらまでんだかワクワクしてくるではないか。しかし、自然の中では思わぬトラブルも起こりそうな気がするのだが。

「保育者としては正直、楽しいと怖いが同時です。当然、安全が第一、無事に帰れるのが第一ですから。でも、自然の中で保育をすることの可能性はすごいんです！ 保護者の方には、小さな怪我をすることがあるということもきちんと説明して理解していただいています」

最大の脅威はスズメバチ。初夏になるとスズメバチが活発に動き出すため、冬から春先にかけてのように木立や草むらをかさがさすることはできなくなる。大人が十分に気をつけてはいるが、子どもたち自身もスズメバチをみかけたらそつと姿勢を低くしてじりじり後退し、ゆつくりその場から離れるという対処法を身につけたそうだ。昔は当たり前だったで

あろう自然との付き合い方を森の中の活動を通して、文字通り身をもって学んでいる。こうした毎日がつく自然と共生する生き方へとつながっていくのかもしれない。

 園舎がない幼稚園？

「せたり森のようちえん」で、まずびつくりしたのは園舎がないこと！ 雨や雪の日にはカッパを着て森の中で遊ぶ。カッパを着ていても濡れて身体が冷えきったり雷がなったりすれば、車の中に緊急避難するそうだ。子どもは濡れることを嫌がらないのだろうか？

「以前勤めていた幼稚園では屋外の行事を雨で中止にしてみました。こうしてやってみると雨の楽しみを全部奪っていったなとつくづく思います」

カッパを打つ雨粒の音や感触、長靴で歩く水たまりや泥んこ。子どもにとってはそれもワクワクすること。

もう一つ、とても驚いたのは子どもたちがナイフやノミ・ノコギリを上手に使いこなしているということだ。間伐された

木の枝を削ったり、木の皮をはいだりして自分が思うような形に加工するのも子どもたちの大好きな遊びの一つなのだそう。

そういうことができるのも10人前後と少人数制で、子どもに対してスタッフの人数が手厚く配置されていて目が行き届いているから。

「『森のようちえん』見守る保育」といわれることが多いのですが、私たちは個々の学びを『○○ちゃんはいまこういう時期で…、いまこの問題にぶつかっていて…』ということを保護者の方にお伝えしながら、『保育』という視点で考えています」

森の中で好き勝手に遊ばせているのではなく、西澤さんたちスタッフが個々の子どもの個性や成長に応じて、子どもが自分たちで考えて決めて解決していけるようにサポートしているという。

と「ところで、そもそも『森のようちえん』とは何なのか？ 子どもたちを森の中のびのびと過ごさせる、デンマークで始まった保育で、ドイツや北欧を中心に世界へ広まり、いまは日本各地でもそれぞれ

独自のスタイルで活動が行われている。西澤さんは一般的な幼稚園での10数年間の教員生活にピリオドを打った後、以前から興味のあった「森のようちえん」の指導者養成講座やフォーラムに参加して勉強。2011年7月から瀬田で「せたゝ森のようちえん」をスタートさせたところだ。週3日制で、活動場所は大津市瀬田のびわこ文化公園や大津市桐生の田畑にでかけて田植えなども体験している。

今日、なにをするの会

「せたゝ森のようちえん」の一日はまずみんなで今日は何がしたいかを話し合う会からスタートする。

「歩き始めて楽しいことや、やってみたいことを見つけていることもあるし、それも森のようちえんの魅力です。そこに日々の流れから『今日はこれをやりたい』という思いをもつ、それを出し合うこの時間を大事にしたいなと思っています」

森の奥まで行きたい、カランコロン広場で競争がやりたい、粘土をとりたいた

プランコを掛けて遊びたい、ごっこ遊びがしたい、山の稜線まで上がりたい…。

「今日は何をするか、どこへ行くのかを自分たちで決めて、それからどの道を通って行くのかも考えます。3・4・5歳の意見がみごとにバラバラなことも(笑)。それをどんな風に自分たちで調整していくか。相談が物別れに終わることもあれば、自分が思っていたようにならないこともある。そういうことをいっぱい経験して、自分たちで決めて過ごす『生活をつくっていくこと』を目指したいなと思っています」

幼稚園として決まったスケジュールがないので、子どもたちのやりたいことがバラバラで話し合いに時間がかかったとしても、大人が『待つ』時間が確保されているのも少人数の「森のようちえん」の良さだと西澤さんはいう。

「自然の中で大人も受け入れられているというか、急かさなくてもいい、今大事にしたいことを大事にできる大人がいるということは大いじんじやないかと思えますね」



1



3



2

① 荒波なんてへっちゃらさ ② 寒さの限界を知ること大事 ③ ロッククライマー
みたいな～ ④ こころへんで切るとええネン ⑤ 「ほら、みて!」子どもの手に卵



5



4



ありのまま、のびのびと（西澤氏）

のまま丸ごと受けとめることを、もう少しみんなが意識していったらいいのではないかと
思います」

さまざまな社会問題が渦巻く現代で、いま問われているのは親のものの見方なのではないだろうか。

子どもが自分たちで
生活をつくれるように

西澤彩木

●にしざわさいき 大阪市生まれ。滋賀大学教育学部卒業後、大阪の私立幼稚園、滋賀・東京の国立大学附属幼稚園にて10年間教員として勤務。退職後、森のようちえんの指導者養成講座や全国交流フォーラムに参加。全国の森のようちえんを旅し、2012年4月より「せたゝ森のようちえん」として森での保育を始める。

「せたゝ森のようちえん」はまだ始まったばかりだ。今後どういう風に運営されていくのか、ここを巣立っていった子どもたちがどういう若者になっていくのかはまだ誰にも分らない。しかし、保育のプロとして経験を重ね、さらに新たな保育の形に挑戦している西澤さんの言葉には子どもをのびのび育てるヒントが散りばめられている。

「いまの子どもたちは生まれる前から『平均値』にさらされていて、お母さんたちは平均と比べて一喜一憂している…。子どもをあり

「森のようちえん」を、プレゼント!!

西澤さんが第2章を執筆した「森のようちえん」を抽選で3名様にプレゼントします。ぜひご応募ください。

住所・氏名・電話番号を明記のうえ、下記宛先まで。記事の感想などもお待ちしております。締め切りは、7月末日。当選者の発表は、発送をもって代えさせていただきます。



【宛先】
〒526-0111
滋賀県長浜市川道町759-3
新江州株式会社
循環型社会システム研究所
M・O・H通信

- せたゝ森のようちえん 〓
 - 森のようちえんクラス「どろだるま」
* 火・水・木 9:30~15:00
 - * 満3歳~未就学児
(満3歳児のみ週1日の慣らし保育可)
 - 森の休日クラス「どよこの森」
* 第1・3土曜 9:30~15:00
 - * 満4歳~未就学児
 - 右記2クラスは親子1日体験有・月謝制
 - 森のおさんぽクラス「おやこの森」
* 第4月曜 9:30~11:00
 - * 満3歳未満のみ・親子参加
- お問合せ先・事務局メールアドレス
norimori.seta@gmail.com
- お返事にお時間がかかる場合がございます。

インターナショナルメッセージ
—独逸 

ミツバチからの SOS

原 修子

ドイツ第一・第二放送がテレビ放送を始めてから、今年で50年になった。

両放送ともそれを記念し、これまで放映された、時代を代表した番組などを再放送している。中にはリメイクされるものもある。その一つに「みつばちマーヤの冒険[※]」がある。

ミツバチと書けばハチミツ。「蜂蜜」はドイツから日本へのお土産を探される方々への私の推薦品の一つである。ドイツでは「蜂蜜」は日常

生活に欠かせないと言っても良い程の身近な食品である。蜜をどこで、そしてどの種類の花から採集したのか、またその蜜の状態がどうなのか、バイオなのかそうでないのかと、種類も豊富である。

数年前からミツバチが原因不明の病気になる、繁殖能力が衰えているという。養蜂家が「静かに、しかし急速な勢いで死んでいっている」という状況について警鐘を鳴らしていた。一時はマスコミも大きく取り上げたが、やがて表面から消えていってしまった。しかしその状況を深刻に受け止めた科学者たちが原因追及の研究を進めていた。自然環境、とくに化学農薬との関連が疑われたからである。そして今年1月に欧州食品安全機関はネオニコチノイド系農薬3物質について、許容出来ないレベルの危険をミツバチに与えると発表した。そし

てそれを受け4月に欧州委員会にEU加盟国から該当する農薬の使用禁止を求める提案がなされ、向こう2年間と期限は限られているが、該当化学農薬の使用を禁止するという決定が参加国過半数の賛成を得てなされた。

バイエル社に代表されるように、ドイツは化学薬品、化学農薬品等の先進国である。これらの大会社のロビー活動の力は非常に大きい。「薬品会社マフィア、薬品会社村」とも言えるかもしれない。

マスコミがこの問題を忘れて時に養蜂家たちはインターネットを活用した。情報提供、オンライン署名、あるいは電話運動…。

ミツバチの危機が言われ始めてから、今回の決議まで、長い道のり、時間であった。養蜂家、科学者、専門家、このキャンペーンに賛同し支援してきた各機関や政治家。そしてそ

れに応じて行動した各国の国民、市民たち。

「諦めない、絶望しない」

それが今回の成功に繋がったのである。そして次への動きへとも繋がって行くのだろう。

ところで、リメイクされる「みつばちマーヤの冒険」の製作はフランスでされるとか。マーヤたちのスタイルもすっかり現代風、スマートなものになっているらしい。

放映は秋から。ニュースタイルのマーヤ。複雑なものがある。

※みつばちマーヤの冒険は、ドイツの作家ウルフル・ボンゼルス著の児童文学作品。同作を原作として、日本ではテレビアニメとして放映された。

原 修子

●はらしゅこー徳島市出身。1972年よりドイツアウグスブルク市在住。國學院大学文学部哲学科及アウグスブルク大学カトリック神学科卒業。職業、通訳。翻訳。

M・O・H インタビュー
「ミツカン水の文化センター」

水をキーワードにした 社会貢献活動



後藤 喜晃
ミツカン 水の文化センター
センター長



新美 敏之
事務局長



松本 裕佳
事務局

お酢のメーカーとして全国に知られるミツカンが1999年に設立した「水の文化センター」は水と人の関わりをテーマにして、機関誌『水の文化』の発行や水に関する研究調査を行っています。企業の社会貢献そして環境に対する取り組みなど、琵琶湖畔から発信する『M・O・H通信』とも共通点の多いことから、「水の文化センター」の活動についてお話をうかがいました。

- ミツカン 水の文化センター（東京）
- 2013年3月28日
- 聞き手／辻村琴美



機関誌『水の文化』
年に3回発行している

水と人の関わりに焦点

辻村 醸造酢を中心とする食品メーカーのミツカンは、1804年創業の老舗として広く知られています。そのミツカンが「水」にテーマを絞った「水の文化センター」を設立した経緯は？

後藤 創業の地である愛知県知多半島はもともと醸造業が盛んでしたが、醸造に向いた水に恵まれていなくて。醸造業にとって重要なのは原料と水と気候。温暖な気候と農作物には恵まれたのですが、水だけは苦労しました。木製の私設水路を造って知多半島の山から海辺の工場までずっと水を引いたりして、海に囲まれているもの水には非常に苦労したんですよ。

辻村 水に恵まれなかったからこそ、水のありがたさをより強く感じるようになったということなんですね。

後藤 知多半島で酒粕から造られた粕酢は海運で江戸へ運ばれ、江戸で早ずしに使われて大流行しました。そして舟運により大量輸送が可能になったことが、今日の会社の礎をつくりました。水に苦労



酒粕酢などを江戸まで運んだ廻船(模型)



江戸前握り寿司の前身「早ずし」



「昔の酢作り風景」作:入江波光



「里川文化塾」で日野市の水路を活かした町づくりを見聞



「里川文化塾」で浦安の上下水道の被災状況を見聞

し、そして海という水に助けられた歴史をもつ故に、“水への感謝の気持ち”から水の文化センターを設立したので。

水は水害もありますし、決して人間の味方だけではないのですけれど、一方で人間は水がないと生きていけないのも事実です。生活に欠くことができないものですから、単に水というよりも、人は水とどう関わってどんな生活をするのかをテーマに、1999年のセンター設立以来14年間活動してきました。水に関心がある方、そして専門家の研究に寄与することで、お客様により豊かな暮らしをしていただけるように貢献することを活動方針にしています。

幅広いテーマと視点で『水の文化』を編集

辻村 社会貢献活動の先輩ですね。見習うところが多いです。具体的にはどういう活動を？

後藤 一番ベースになるのが機関誌『水の文化』の編集発行です。次に、水の健全な循環に関して考える機会となるような

ワークショップやフィールドワークを『里川文化塾』として年6回開催しています。もう一つメインの活動として水についての生活意識調査があります。ほかにホームページ上で、水に関わる人や場所を紹介しています。

機関誌『水の文化』は編集部でアイデアを出し合って毎号一つテーマを決めて編集し、無償で年3回発行しています。農業や電力など生活に関わるさまざまな水の問題をクローズアップ。研究者をはじめ防災担当者や農業家・工芸家といったプロから、さまざまな水に関わる活動をしている一般の人まで幅広い視点を取り

あげ、現場を取材しています。
辻村 重厚で硬派な内容ですね。

後藤 いま問題になっているのは読みやすさ(笑)。どうやって読んでもらええるかを考えながら編集しています。

辻村 弊誌も同じ悩みを抱えています。

新美 ターゲットをどこに設定しているのかわかりにくいとよくいわれます。水の専門家だけを対象にしているのかが。水に関心がない方にも、これから水に関心をもっていただけのような内容にして



「里川文化塾」で荒川放水路の歴史や役割を見聞

いかなくてもはいけないのではないかと考えています。水の大切さをみなさんに分かっていただく、水に対しての意識を高めていただくことが水の文化センターの活動の根本にありますので。

人の暮らしと関わる 「里川」の多様な姿

新美 “里川”という言葉を私たちは意識して使おうと思っているんです。里川というのは田舎のきれいな川だけではないのではなく、都会に流れるいろいろな川も含めて、人が関わって身近に感じながら守っていく川という意味。川と関わりがあれば水を汚そうとは思わないですから、水をきれいにしよう、水を大切にしようという意識が醸成される。そういう思いをこめて“里川”という言葉を使っているんです。

辻村 滋賀県という“里山”ですね。大津の仰木の里から高島の針江あたりは、写真家の今森光彦さんが里山として紹介されています。滋賀県は琵琶湖のまわりを山が取り囲んでいますから、きれいな水

をつくるには川の水をただ浄化するのではなくて、里山である森や山のあり方から考えるというのが滋賀県の視点です。東京は平野部で山はあまりありませんから“里川”に注目されたわけですね。いいネーミングですね。

ところで「春の小川はサラサラいくよ」という歌は東京の川でしたよね？

新美 あの歌は渋谷川です。いまは三面コンクリート張りで深谷みたいに深い川になってしまっ、水も流れていないんですよ。『水の文化』42号の表紙の写真が渋谷川です。

辻村 これがあの歌の川!?

新美 都市部を流れる川なので、人が多く住むようになると生活水を流してどぶ川になってしまった。どぶ川ではいけないと、三面コンクリート張りにして深くして水を大量に流すようにしたんですが、実際には下水だったんですよ。いまは分流式で下水は直接流れないけれども、大雨が降るとあふれて下水が流れてしまっ。ちよつと雨が降ると臭いなあと思っってしまった。

辻村 こんな姿になるなんて…。残念ですわね。



「やりがいがありますよ」後藤氏

新美 でも、高度経済成長期にはそれがいい姿だったんですよ。例えば、昔の土で築いた農業用水は維持管理がたいへんだった。水が枯れ葉で詰まったりもしましたから。それを三面コンクリート張りにしたら、農家の人たちは「これが美しい姿だ」といったそうです。何を美しいと感じるかは人によって違うし、住む環境によっても違う。私たちはすぐに「三面コンクリート張りは悪い」「昔のままがいい」と思ってしまうのですが、直接関わっている人たちは三面コンクリート張りを望んでいたということもあるわけです。水について情報発信をしていくとき、いろいろな価値観が違ってむずかしい面が多々あります。

辻村 弊誌もそうですが、読み手の要望に応える冊子とはどういうものかというのは永遠のテーマですね。

新美 私たちの場合は、読み手の要望をどういう風にすくい上げるかよりも、いろいろな考え方を紹介して、あとは読者の想像と理解にゆだねようと考えています。

水は利害が対立することがいっぱいあるんですよ。例えば堰ひとつとっても賛成派と反対派ではものすごく考え方が違うので、どちらの言い分も全部聞いて、あとは読者にゆだねる。

辻村 充実した内容と読みやすさのバランスをどうとるかや弊誌でも常に悩むところ。その点では共通しています。弊誌は主張を前面にだして循環型社会に構築しようとする社会に広く呼びかけているんですよ。それに対して『水の文化』はあくまでも中立的な立場から問題提起や情報発信をしていく姿勢を貫いておられるんですね。

川を歩いてたどることで みえてくるもの

「九州の遠賀川を歩きます」松本氏



松本 水の文化センターでは『水の文化』の読者と直接交流する場を設けようとした。暗渠化された道路になっている渋谷川をたどるフィールドワークや、災害発生時の川の利用法や身の守り方について現場となる河川施設を訪れて考えるワークショップなど、さまざまなテーマを決めて年に6回開催しています。

辻村 人が集まれる“場”をつくるのはとても大事なことです。すばらしい取り組みですね。固定的な場所を塾としてやっておられるのですか？

新美 いえ、毎回テーマを変えて、訪れる場所も変えています。

松本 事務局が小さいものですから20人



「水の文化は深く楽しい」新美氏

から30人くらいを対象に行っていて、その手作り感もいいのかと思っています。里川文化塾を始める前は、200人くらい入る会場で年に1回フォーラムを開催していたのですが、もっと小さな単位で私たちの活動をより近しく伝えるような普及の現場にしようとスタートさせました。固定ファンはともうれしいのですが、普及の現場としてより幅広い年齢層の方に参加していただけるようにしたいと今後の企画について考えているところです。そこで、今年は年6回のうちの1回は夏休み期間中に設定して、親子で参加できる内容にすることにしました。

辻村 親子での夏休み企画というのはいいですね。

松本 今回は草木染めと川をガサガサやってどんな生きものがいるのか探して、水辺の学校のようなものを一旦完結でやろうと思っています。草木染めも特殊なものではなくて、川の近くに生えているセイタカアワダチソウなどできれいに染めようという企画です。

おかげさまでファンの方がいてくださって『水の文化』を14年間続けてこられました。専門家の方が読むにも耐えうる現在のクオリティは落とささないようにして、大きく変えないながらも里川文化塾同様、少し新陳代謝していこうと思っています。日本全国の一級河川109全部を踏破したという川マニアの筑波大学博士課程の学生がいるんですよ。その人に川の見方をガイドしてもらいながら、全国の川を巡る予定です。若い知識を企画に取り入れて誌面をリフレッシュしたいと考えています。

第一弾は九州の遠賀川おんががわ。源流から下流までを一部車も使いながら一緒に歩いて、どうやって川を歩いたら楽しいのかを探ります。

辻村 弊誌も読者のみなさんと一緒に

町歩きをしています。地域をもう少し活性化させるには、まず暮らしを見つめ直そうと。街道筋を歩いて歴史を感じたり、田んぼが廃れて放棄地になっているなどが、歩いて見えることはいっぱいありますよね。

新美 そうです。課題や問題をすぐに解決できなくても、それについて考えるきっかけが作れば、あとはその地域の方が集まってくれたらと考えています。そういう意味でフィールドに出るのは大切なこと。現場を知らないで水のことを語れませんからね。

松本 滋賀といえば、今年6月発行の水族館特集号では琵琶湖博物館取材しましたよ。あそこは楽しいですね、この魚はどうやって食べたら美味しいかまで全部説明していただいて(笑)。

新美 ビワマスのお話を聞いていて、「ビワマスは刺身で食べると美味しいんですよ」といわれて、ビワマスが目の前をいっばい泳いでいるのを見たら「おいしそうだなあ」と思ったりしてなかなか楽しい水族館でした。『M・O・H通信』の39号を



「誌面をリフレッシュ!」松本氏(左) 「実は長浜出身なんです」後藤氏(中)
「不思議なご縁のある」新美氏(右)

拝見していたらビワマスのお寿司の記事
があって、食べたいなあ(笑)。
辻村 おすごいですよー! ぜひビワマス
を食べにいらしてください。2000年以
上も続く老舗である御社の社会貢献活動
は、水を柱に、里川という地域活動を続
けておられ、勉強になりました。本日は
ありがとうございました。

■里川の可能性 一利水・治水・守水を共有する

- 編者／鳥越皓之、嘉田由紀子、陣内秀信、沖大幹
- 企画／ミツカン水の文化センター
- 発行／新曜社
- 価格／2200円+税
- 内容／都会の川、街中の水路なども広く含む。経済目的の利水、水害の被害を防ぐ治水だけでなく、川を地域の財産、愛着ある場として共有する「守水」の考え方を「里川宣言」として提案する。



中庸 後藤 喜晃

●ごとう よしあき 1960年滋賀県生まれ。1984年同志社大学経済学部卒業。同年(株)中鉢酢店(現(株)ミツカングループ本社)入社。入社後は、業務用事業部門(業務・営業、人事チーム、総務部、社長室の勤務を経て、2013年3月コーポレートコミュニケーション室マネージャー兼ミツカン水の文化センター長に着任。

水も不印に!

新美 敏之

●にいみ としゆき 1953年東京都生まれ。1976年 明治大学商学部卒業。同年(株)中鉢酢店(現 (株)ミツカングループ本社)入社。入社後は、家庭用事業部門(業務・営業、宣伝チーム、商品開発部、社長室、広報室等の勤務を経て、2006年3月コーポレートコミュニケーション室にてミツカン水の文化センターを兼任。

いつも笑顔で

松本 裕佳


●まつもと ゆかり 1976年東京都生まれ。1999年 早稲田大学第一文学部卒業。同年(株)ミツカングループ本社入社。入社後は、宣伝チーム、コーポレートコミュニケーション部(商品PR・広報担当)を経て、2010年3月よりコーポレートコミュニケーション室にてミツカン水の文化センターを兼任。

●ミツカン水の文化センター
<http://www.mizukana.jp/>

あいとうふくしモールに 農家レストラン 「ファームキッチン野菜花」 オープン



木のぬくもりを感じ、清潔感あふれる店内①
手描きのメニューがイイ感じ②

 **おいしいなあ
おかあちゃんの味がする**

2013年4月5日、東近江市小倉町の「あいとうふくしモール」内に、地元野菜を使った郷土料理を地域のお母さんたちが心をこめて提供する、農家レストランがオープンしました。

店内は木の肌ざわりが心地よく、テーブルなどに使われる木も地域のもの。ほっこりとした空間には大きな窓から光がさしこみ、店内を優しく包み込みます。窓側のカウンター席からはのどかな田園風景と一級河川・愛知川の景色を楽しむことができます。

ランチメニューは、豆腐とごぼうのかば焼きや菜種油をつかった天ぷら（菜の花プロジェクト発祥の地ならでは）、桜もちのあんかけ、彩りオムレットなどが並びました。地元野菜が中心のメニューはおもてなしの心が伝わります。



①



④



②



③

- ① 「ファームキッチン野菜花」外観
- ② あいとうふくしモール内には3つの施設が並ぶ
- ③ テラス席から臨む田園風景
- ④ 地元の野菜とお母さんの愛情がたっぷりのメニュー

🍷 ふくしを「コンセプト」にする くらしやすくする

あいとつふくしモールとは、障がいや認知症があっても安心して暮らせる地域づくりに取り組むプロジェクトで、モール内には3つの施設があります。NPO法人あいとつ和楽が運営する、障がい者の働きを支援する共同作業所「田園カフェこむぎ」と「薪工房木りん」。NPO法人結の家が運営するティンサービスや訪問看護、ケアプランを実施する「結の家おくら」。そして株式会社あいとつふるさと工房が運営する農家レストランの「ファームキッチン野菜花」です。この3事業者が互いに連携していくことで、豊かな地域を創造することを目指しています。

例えば、同レストランで地域のお母さんたちが作る料理が、福祉施設への食事提供へつながったり、「薪工房木りん」で生産される新が3施設に設備された新入トープの原料になっているりします。高齢者や障がい者も働ける場であり、施設を利用して暮らす場です。

🍷 健やかな身体は安全な食から

同レストランは、地域の高齢者が気軽に立ち寄れる拠点づくり、子育てサロンの開催といった多世代の交流の場としても期待されています。

レストランを経営する株式会社あいとつふるさと工房の代表取締役・野村正次さんは、

「地元の野菜を活用することで、地域のおじいちゃん、おばあちゃんたちの生きがいや社会参加につながれば、とても嬉しいことです。モール内の3つの施設が連携して、社会的つながりをもつていきたいです」と話してくださいました。

ふくしモールの構想から3年、多くの方の支えがあつてようやく事業が動き出しました。

地域のお母さんたちが作る美味しい郷土料理と優しいおもてなし、店内の木の温もり、大自然の絶景…。地域の良さが詰まった農家レストランに、また行きたくなりました。



「安心して暮らせる地域づくりを」野村氏

- ファームキッチン野菜花
- 住所 〒527-0165
- 滋賀県東近江市小倉町1975番地3
- あいとつふくしモール内
- TEL) 0749-46-1455
- FAX) 0749-46-1425
- 営業時間) 11:00～18:00
- 11:00～14:00 ランチ
- 14:00～17:00 喫茶・軽食
- 11:00～18:00 お惣菜の販売
- 〔定休日〕 火曜日
- 〔PCR〕

<http://www.fukushi-mail.com/>

くつきの森・山のめぐみフォーラム2013

親子で植えよう、 クヌギの木の植樹祭

- ◆テーマ／木を植えて、親子で考えよう、生物多様性
 - ◆と き／2013年4月20日(土)
 - ◆ところ／森林公園くつきの森(高島市朽木麻生)
 - ◆対 象／小・中学生とその親・祖父母など
 - ◆参加人数／親子等13組(45人)
 - ◆内 容／①木を植える「未来の山のめぐみ」
 - ・種類 クヌギ(35本)
 - ・場所 馬の背(ホトランド)②食べる「山のめぐみをいただく」
 - ・メニュー 石窯パン+山菜ごはん+山と里の副菜
 - ・場所 やまね館③つくる「山の素材を使ってアート(コケを使った「小さな森」づくり)
- ◆主 催／特定非営利活動法人麻生里山センター、高島森林体験学校、公益財団法人森林文化協会
- ◆協 賛／太陽生命保険株式会社、M・O・H通信



ちびっ子からおじいちゃん、おばあちゃん、外国からも…

実施報告書より

麻生里山センターでは国連の提唱するグリーンウエーブに賛同する活動として、植樹祭の開催を公益財団法人森林文化協会からお誘いを受け、高島森林体験学校と共に3者の共同開催を計画、太陽生命保険㈱やM・O・H通信の協賛を得て実施しました。

麻生里山センターでは、23年度から山のめぐみフォーラムを開催してきました。山のめぐみというものに目を向け、めぐみを受け続けるためには私たちがどのような取り組みをしていったらいいのだろうか、を考える機会にしています。今年、山のめぐみのひとつ、いろいろな生物を育む森で、実際に植樹をする活動をしました。

植樹するクヌギは、トングリのなる代表的な木で、カブトムシなどが集まる木です。10年後、20年後には、昆虫や野鳥など多くの生きものが集まる生きもの豊かなクヌギの森の形成をめざして実施したものです。

クヌギの植樹

子どもと一緒に土に触れ、貴重な体験ができたこと好評であり、子どもの成長とあわせてクヌギの生長も見守りたいとの意見が多数ありました。



グリーンウェイブ紙芝居シアター



主役は子どもたち。パパとママは見守ります



クヌギに名札をつけて完成 まず、穴を掘ります

アンケートより

- 初めて植樹体験しましたが、子どもも楽しそうに土に触れながら植えることができ、よい思い出になりました。
- 子どもが大きくなった時、どうなっているのかなあ…(クヌギも我が子も)思いをはせてしみじみ。よい体験でした。
- たのしかった(5歳年長組)
- もう少し時間があってもよかったと思います。
- 丁寧に事前準備をさせていただいたおかげで、子どもたちでも簡単に参加することができました。



ワクワクしながら山に入ります

山のめぐみバイキング

石窯を使ったヨモギパン、おくどさんで炊いた五穀米ご飯、山菜を使ったてんぷらや醤油漬けなど、ひとつひとつ、こだわりを持った食べ物で山のめぐみを実感出来る内容となりました。メニューの決定、試食、食材の確保と準備にとても時間を要する昼食会となりましたが、参加者からはいろいろな料理が一度に食べられる贅沢な機会と、評価され好評を得ることが出来ました。



石窯も共同作業でつくりました



おくどさんで炊いた五穀米ごはんもありますよ。期待の目線

アンケート
より



ヨモギ、タラの芽、ツクシも…



米粉とふきのとうのシフォンケーキ

- 道中タラの芽があったので、てんぷらを食べたいなあと思っていたので、本当にうれしかったです。
- 米粉で揚げると時間がたってもパリッとした食感なのでですね。
- 自然の素材がすごく優しい味でよかったです。思った以上に子どもがおかわりをしていました。
- 美味しかったです。わらびの醤油漬け、ご飯がすすみました。
- Fantastic! I loved the wild food. (すばらしい! 山菜料理が好きになりました)
- レシピを教えてもらいたかったです。



アンケート
より

「できたよ〜」ボクの苔森

- いろんな苔を選んで自分たちだけの森づくりができるのは楽しい。思った以上に綺麗に出来上がり、子どもも大喜びでした。
- 家族でもめながら楽しく作成できました。子供たちも「私がやる!」と言って取り合っていました。
- たくさんの苔を組み合わせて一つのものに作り上げる楽しさが良い経験になりました。大切に育てます。
- 苔がこんなにたくさんあるとは驚きでした。孫があればこれもと喜びながら森づくりをしていました。もしかしたら、苔の間から新しいものが生えてくるのが楽しみ、どうれしそうに話しています。

小さな苔森づくり

コケ、シダなどを使って小さな森づくりを行いました。参加者からは手軽にきれいに仕上がることから好評でした。



「苔を選ぶって初めてじゃない?」

TEL. 074-0138-8009
443
〒520-1451 滋賀県高島市朽木麻生
● NPO 法人麻生里山センター

シカ柵用の支柱を竹で手作りすることからはじまり、バイキング、苔森づくり、すべてにおいて材料確保、下準備に相当な時間と労力を要しましたが、参加者には喜んでいただき、イベントとしてコンパクトながらも楽しく有意義なものとなりました。



日頃のストレス(?)も吹っ飛ばくらい清々しい森のお散歩

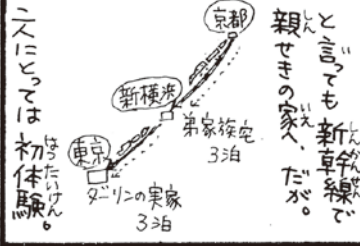
山暮らし子育て日記

るけり旅の巻
作: 松本キキ

「かわいい子には旅をさせろ」ということで、二人の子どもも旅に出す。



「新幹線でも親せみの家へ、たが。」
と云っても、親せみの家へ、たが。
「お母様、行って参ります!」
「行くんだよ。」



「一本あったきり。」
「ホッ、まずは一安心。」



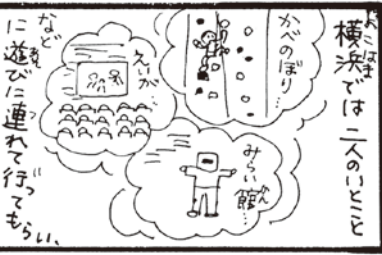
人口16人の山村から大都会へ行、たがたち。
「どうだろう?」
「迷子にはならない?」
「イヤ、めずれて。」



「おぼさん、まだ覚えて、もひとつ、えいか... レストラン...」
「おぼさん、まだ覚えて、もひとつ、えいか... レストラン...」



「横浜では二人のいともかへのほり...」
「おぼさん、まだ覚えて、もひとつ、えいか... レストラン...」



「おかえり〜?」
「たにいま〜」



「でもニヤ、おカネがいくらあっても足りないわ。おカネなしでは、遊べばかり。スポンサーサマサマですな。」



「ヒョエ、毎日毎日すごいわ?」
「出かける所、いはあるわ〜」



「おぼさんにもない、だろ?」
「アウセント、ヤなん。」



「あー、二は建物も少ない、車も少ない、あ。」



「ん? 二人ともなんだが、たのもしくな、た感じ。」





普段、ほとんど電車に乗らない生活なので、駅で切符を買う、改札を通る、ホームで待つ、という基本的なことから教えなければならず、その点もやや不安でしたが、新幹線に子どもたちだけで乗れる! という楽しみも手伝ってワクワクで旅立ちました。たった2時間半で新横浜に着くのですが、降り過ぎないかどうかとドキドキしていました。

息子は小学6年生、娘は小学3年生。思えば私も小4になる春休みに小6の姉と東京へ新幹線に乗って友人宅へ旅行しました。あまりにも楽しすぎて、帰りの

新幹線では帰宅拒否症? でぼろぼろ涙を流した記憶があります。

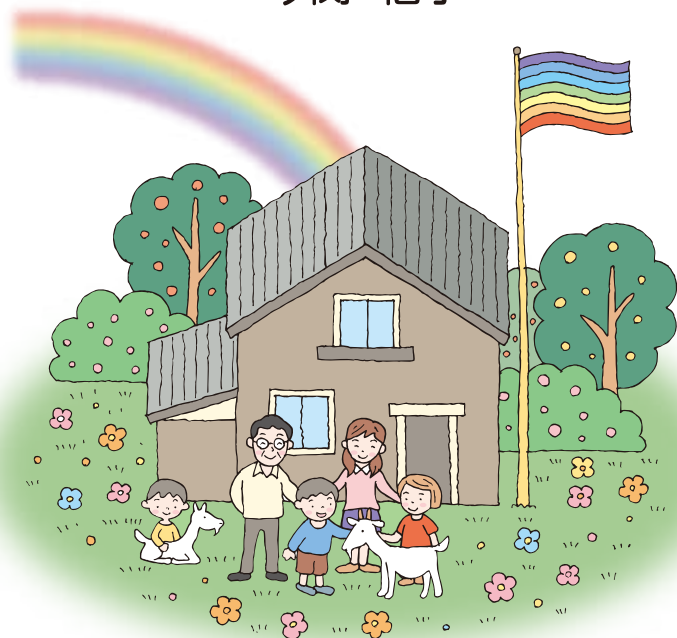
ひよっとしてうちの子たちも...? と思いましたが、帰って来るなり外で遊び、新風呂に浸かって、質素な食事に箸を進めてくれました。

「やっぱり山の子は山が一番ええんやわ。」とひとりで納得していました。隣のおばちゃんに「いやあ、天国と地獄ですよ。」と話した息子。どっちが天国でどっちが地獄やねん?!

●本名加藤みゆき。人口17人の集落に住み3人の子育てに奮闘中。将来、家族で海外へ旅行するのが夢。

虹色の旗がはためく家

今関 信子



イラスト：千田 満

郵便物の中に敬愛するK先生の文字を見つけて、

「つわあ、先生、よくなられたんだ。」と、ハガキを裏返して、私は息をのんだ。K先生の告別式のしらせだったからだ。

先生は、胃全摘手術後、生き生き生きることを優先した闘病生活を続けていた。

そんな日々のある時、先生は、愛用の万年筆を握って、ご自身の告別式の通知を届けられた。あの人この人をおいつつ、宛名書きをされたのだろう。

K先生とは、「イスパの会」で出会った。正式には、「和平へのイスラエル・パレスチナ遺族の会」という。敵対する双方の遺族が、傷みや悲しみを分かち合って、平和を求める人たちの会だった。

振り返ると、K先生の生涯は、「平和」を求め、人を繋ぐこととする活動で、貫かれていたように思う。活動の根っこには、先生の忘れられない記憶がある。

一九四五年五月、父親の葬儀の最中に、空襲警報が鳴って、参列者はみな帰ってしまった。二歳の弟を負った母と幼い妹弟とK先生の六人は、遺体に乗せたりヤカーを引いて、焼け跡の道を焼き場へ向かった。

この光景がその後の先生の生き方に、大きな影響を与えたのだ。

先生の残した家が、虹色の旗をはためかせて、琵琶湖の西側の湖岸近くに建っている。

ある時、K先生は、こんな詩を書いた。

小泉潤

私の家は虹の家

主の約束の家

虹は七色の一つの帯

それぞれの色が重なり合って美しい

第一の色は神様と私の絆

第二の色は神様と親子の絆

第三の色は私と妻の絆

第四の色は私と子どもや孫たちとの絆

第五の色は私と友人の色

第六の色は私と同志(平和)の色

第七の色は神様と世界の人々を結ぶ絆

それぞれが重なり合って美しい

私が虹の彼方に行っても

雨が降り太陽が照れば虹はまた輝く

退職後に建てられた虹の家は、開かれています。だれにでも。どんなときでも。ある時は、学校に行けなくなった子どもを、預かっていた。お年寄りが、お茶を飲みに行ってくる。山羊がいた。野菜が育つ。雑草が青々と生えている。名もない草が、可憐な花を咲かせる。平和の活動を行う人たちの会議が開かれる。悩みを持った人が、やってくる。

虹の家は、きょうも、高いポールに虹色の旗をはためかせているに違いない。出会った一人一人を大事にした先生の思いを映して。どの命も平和に生きられよに願いながら、湖畔に翻っているに違いないと思う。

●いませき のぶこ 1942年、東京生まれ。東京保育女子学院卒業後、幼稚園教諭となる。7年間保育者として働いた後、創作活動にはいる。日本児童文学者協会理事。

〈主な著書〉『小犬の裁判はじめます』1987 童心社 青少年読書感想文コンクール課題図書、『さよならの日のねずみ花火』1995 国土社 青少年読書感想文コンクール課題図書、厚生省中央児童福祉審議会推薦文化財。「地雷の村で」「寺子屋」『く』2003 PHP 研究所など多数。

●せんだ みつる 1950年、滋賀県生まれ。大阪のデザイン会社を経て1980年「イラストレーションスタジオアビエロード」設立。イラストレーションを中心にポスターやパンフレット等を制作、ロゴマークやパース・キャラクターデザイン等グラフィック全般、広告・エディトリアルを中心に活動中。



「ここが大津百町館です」森川氏(中央)

向春の交流会チラシ



大津ウォーク (Vol.20)

町家と落ち着いた街並みを守り継承していくためには？

- ◆ 日 時 / 2013年3月10日(日)
- ◆ 場 所 / 大津百町館(大津市中央1丁目8-13)他
- ◆ プログラム
 - 13:00 JR「大津駅」集合
 - ・まちあるき 大津駅～県庁周辺～京町通界限
 - 14:45 大津百町館 集合
 - ・京町通の街並み保全の取り組み(地区計画と景観形成)
 - 講師：柴山直子さん((有)柴山建築研究所代表)
 - ・大津百町館の取り組みと町家の再生に向けて
 - 講師：森川稔さん、柴山直子さん
 - ・意見交換会
 - 1) 大津の町家再生の取組について
 - 2) 環人ネットの今後の活動について
 - 16:15 大津百町館 出発
 - ・まち歩き
 - 大津祭 曳山展示館～
 - まちなか交流館 ゆうゆうかん～ 旧大津公会堂
 - 17:20 旧大津公会堂(京阪「浜大津駅」前)にて解散
- ◆ 参 加 / 15人
- ◆ 主 催 / NPO 法人コミュニティ・アーキテクトネットワーク(環人ネット)
- ◆ レポート / 森川 稔



■大津百町我儘百景

- 著者 / あんらくよしまさ
- 発行 / サンライズ出版
- 価格 / 2000円+税
- 内容 / 江戸中期に、すでに百を数える町があった旧大津。大津まちあるきと大津で暮らす人のことをまとめた一冊。まちの中に溢れる「アート」がおもしろい。

今回の交流会では、旧東海道である京町通から中心商店街である菱屋町商店街までのまち歩きと、大津のまちづくり活動の事例紹介を通して、町家の再生とまちづくりについて考え、意見交換を行った。

大津は、城下町、港町、そして宿場町として発展してきたまちである。

天正14年（1586年）頃に築城された大津城のもとに町が形成され、京、大阪へ通じる琵琶湖舟運の重要な港として数多くの物資が運び込まれるようになった。また、東海道の五十三番目の宿場町として、街道一の人口を誇ったという。大津百町という言葉も、当時の繁栄を表現したものである。

こうした歴史をもつ大津のまちなかには、空襲を受けなかったこともあり、数多くの町家が残っている。大津市が平成16年度に行った調査によれば、町家と思われる建物は約1600軒。この調査から9年近くが経過した今日、取り壊しなどによって町家の数は急激に減少しているのではないだろうか。

大津の中心市街地では、まちの賑わい創出が大きな課題になっており、平成25年度からは、第2期の中心市街地活性化基本計画がスタートした。「湖岸エリア」、「大津百町エリア」、「一駅・県庁周辺エリア」の3つのエリアを連携させながら、とくに「大津百町エリア」と「一駅・県庁周辺エリア」に賑わいを生み出していくことが重要なテーマになっている。

こうした大津のまちなかで、2013年3月10日（日）、NPO法人環人ネットによる「向春の交流会」が開催された。

大津駅に集合し、県庁周辺や町家を見学しながらのまち歩きのうち、大津百町館を訪問した。百町館は、市民グループ「大津の町家を考える会」が管理運営する町家で築200年近いと推定され、現在は一般財団法人大津歴史的建造物保存会が所有している。「大津の町家を考える会」は百町館を一般に公開するとともにイベントやセミナーなどを開催し、町家の素晴らしさを発信している。

大津のまちなかは都市計画の商業地域に指定されていることもあり、低層の街並みの背後に、高層マンションが

町家の背後にそびえたつマンション…





電車が通る風景は風情がある。建物は旧大津公会堂



露国(ロシア)皇太子遭害の地を示す



「滋賀県庁は優れた近代建築です」滋賀県庁

まち歩きの中で、旧東海道にあたる京町通りで、街並みの保全に取り組み柴山直子さんにお話を伺った。京町通りでは、まちなみ協定にもとづく沿道景観の修景・整備が進められている。また、地区

屹立するという状況があちこちにみられる。低層と高層の建物が混在することによって、まとまりのない混乱した景観が現われている。長い歴史のなかで形成されてきた落ち着きのある街並みの魅力が失われ、町家が生み出してきたコミュニティや暮らしの知恵が失われていくことも懸念される。「大津百町エリア」については、町家が生み出す、暮らしの場としての風情や味わいが魅力なのだが、マンションの混在がそつした魅力を低下させ、来街者にとって味気ない魅力に乏しい場になってしまつて懸念される。



講師の柴山さん

計画を定めて、壁面の位置や建物の高さなどに制限を加え、沿道に立地する高層マンションを少しでも街並みに調和させようと取り組まれている。

こうした取り組みを行う地域は、まちなかのごく一部にすぎない。まちなかの望ましい姿をどのように描き、その具体化にどのように取り組んでいけばよいのか。関係権利者の思いを明らかにしながら、少しでも望ましいまちなか像の実現に取り組んでいけないものだろうか。遅きに失したことは否めないが、このまま策もなく、まちなかが混乱していくのは、何とも惜しい気がする。

楽しく軽やかにびじゅんリと 森川 総

●もりかわ みるる 都市計画のコンサル
タント事務所で、30年近く、都市計画・地
域計画やまちづくりなどに携わり、
2007年から滋賀県立大学に勤務。地
元の大津では、市民活動のほか、市民劇団
O2劇場の代表を務め、役者として舞台
に立っている。

環人ネット イベント案内

環人ネット研修会

手漕ぎ船に乗って、伝統食の漁師料理を味わう

三上山からびわ湖に至る豊かな“水と緑”に囲まれた多様な自然環境を有する野洲市は、里山から湖までの一連の自然環境の保全に市民が活発に取り組んでいるまちとして県内外から注目されています。

今回の交流会の目的は、野洲市市民団体の自然環境保全への取り組み内容を紹介し、美味しいびわ湖の伝統食「漁師料理」を味わいながら、びわ湖への理解を深め、自分自身の暮らしのありようについて考え、地域の人達と意見交換することにあります。みなさまのご参加をお待ちしております。

幹事：樋上真吾、政本幸三

- ◆開催日／平成25年6月23日(日)
- ◆研修場所／野洲湖畔 あやめ荘(野洲市菖蒲252 Tel:077-589-3239)
- ◆参加費／5000円(当日お支払い下さい)
エコ遊覧乗船及び昼食(湖魚料理)代、資料代等を含みます
- ◆研修スケジュール(予定)／当日の天候により研修内容を変更する場合があります。
 - 10:00 野洲駅北口集合 乗用車で現地へ
 - 10:30 びわ湖マイアミランド着
ピワコマイアミランド・あやめ浜の散策
 - 11:00 家棟川エコ遊覧乗船乗場着
手漕ぎ船上から近江富士、比良山を眺望
 - 12:00 昼食(あやめ荘)びわ湖の漁師料理
 - 13:00 ミニフォーラム(菖蒲自治会館・野洲市菖蒲262-2)
「びわ湖と共に50年」
講師：松沢 松治 さん
(びわこの水と地域の環境を守る会 代表)
「野洲市環境基本計画の今後の取り組みについて」
講師：福山 雅治さん
(野洲市環境経済部環境課 課長補佐)
 - 15:15 兵主大社着 宮司さんの説明、庭園の観賞
 - 16:00 野洲駅着 解散予定
- ◆お問い合わせ・申込み先／
〒522-8533 彦根市八坂町2500
滋賀県立大学 近江環人地域再生学座事務局内
Tel:0749-28-9852 Fax:0749-28-0220
- ◆主催者／NPO法人 コミュニティ・アーキテクトネットワーク(環人ネット)



花の山

三山 元暎



さし絵:中川 善雄

山笑う季節、花の山へ行く
うと誘われ、おとなりの福井
県南越前町今庄の鍋倉山と藤
倉山を歩いた。JR今庄駅か
ら北へ、北国街道の宿場町の
風情が残る市街地を抜け、山
道を登る。家並みが尽きたと
ころから杉林を二〇分も歩いた
だろうか。

西に面した斜面一帯に紅紫
色のカタクリの
花が、ややうつ
むいて咲いてい
た。しなやかな
曲線を描いて反
り返る花びらの
一枚一枚が風をはらんで揺れ
ている。イカリソウ、ヤマエゴ
サク、つつましく咲くニリンソ
ウもある。少し湿った草むら
には、暗紅紫色の花をつけたハ
シリドコロが咲いている。これ
は猛毒だ。誤って食べると幻覚
症状を起こし、ところかまわ
ず走り回るところからこの名
が付いたという。さらに林の道

を行くと、木の陰にひとかたま
りのイチリンソウがあった。

真実寂しき花ゆえに一輪草
とは申すなり(北原白秋)

湯尾峠を経て尾根道を弘法
寺へと向かう。とうに盛りを
過ぎたタムシバが淡く甘い香
りを漂わせながら、半分しお
れて咲いている。

弘法寺から鍋倉山、藤倉山
への山道はアップダウンの繰り返
返して、正直、久しぶりの山行
の身にはきつく、辛かった。そ
のしんどさをイワウチワの柔ら
かく優しい淡紅色の花が癒し
てくれる。

藤倉山からの眺めは雄大だ。
とり分け雪をいたたく越美国
境の山々が美しく輝いて見え
る。その中でひとときわ高いのが
能郷白山。その右手の尖った山
は冠山。北東側に遠く空中に
浮かんで見えるのは、白山だろ
うか。

芽吹き始めた明るいブナ林
を燦々城跡を経てカタクリ祭り

の会場地、新羅神社へと下る。
ラッキーなことはこの道すが
ら、真紅のユキバタツバキの花
や二万本に一本くらいしか咲か
ないという白い白いかたくりの花に
も出会った。

「余生とは歩くことらし山笑
う(清水甚吉)」の一日だった。

三山 元暎

●みやま もとあき 194
0年滋賀県坂田郡山東町(現・
米原市)生まれ。長浜市の理
事・経済部長を経て1995
年8月から2005年2月
まで山東町長。同月14日米原
市誕生にともない退任。真宗
大谷派真勝寺前任職。

悠々自適

中川 善雄

●なかがわ よしお 193
6年生まれ。滋賀県展、長浜
市展、伊吹を描く絵画展な
ど入賞、入選歴多数あり。税
理士。

本の紹介

最近入手した、気になる本・CD・DVD
をご紹介します。

BOOKS

小さくても大きな日本の会社力



- 監修／坂本光司
- 編／こしもくろい
- 発行／同友館
- 価格／2800円＋税
- 内容／「知りたい！循環型社会を考へる会社」シリーズ。中小企業の魅力を発信する。「省包装」をめざす包装資材会社として新九州㈱が紹介された。

青春ばんだバンド



- 著者／瀧上耕
- 発行／小学館
- 価格／1400円＋税
- 内容／琵琶湖が舞台の青春小説。バンドを結成した高校3年生5人組を巡る、熱くてキュート、そして切ないひと夏の物語。

自転車コミュニケーションビジネス



- 編著／近藤隆一郎
- 著者／NPO法人五環生活
- 輪の国びわ湖推進協議会
- 発行／学芸出版社
- 価格／1900円＋税
- 内容／多彩に展開する全国の自転車ビジネスの現状と可能性を一挙紹介。

滋賀の子どものたからばこ



- 編著／滋賀県児童図書研究会
- 発行／サンライズ出版
- 価格／1300円＋税
- 内容／滋賀県には自慢したくなるモノ、がたくさんある。人のこと、場所のこと…。滋賀の宝物を見つけよう。

娘に伝えたい郷土食 あがらしやれ真室川



- 編集／真室川町・真室川町
- 食生活改善推進協議会
- 発行／山形県真室川町
- 価格／1200円＋税
- 内容／伝統食を次代につなぐ郷土料理本。季節ごとの郷土食、行事食など、長年受け継がれてきた真室川の食文化をたづむ。

『論語』にまなぶ人間の品位



- 監修／井出元
- 発行／ポプラ社
- 価格／1400円＋税
- 内容／「論語」の言葉を通じて本当の品位とは何かを考へる、10代のための新シリーズ。古典なのにすらすら読める、古典なのに声に出して読みたい。

スロー・アンド・ステディー



- 著者／秋山茂樹
- 発行／サンライズ出版
- 価格／1400円＋税
- 内容／「スロー・アンド・ステディー」ゆつくりと着実に「をモットーとする著者による、エッセイ・短歌集。

講演日記

でたくの頂を、支援助を、ご講演の依頼を、3月～5月の版をダイジェストにお知らせします。

滋賀地域力ネットワーク 第4回会議

- 日時：3月14日
- 主催：仁連孝昭（滋賀県立大学副学長）、森建司
- 場所：滋賀県立大学環境共生システム研究センター
- 対象：ご賛同いただいた方々
- 参加人数：14人
- 内容：規約と運営方法の検討を行った。キーワードは「地産地笑（ちさんちしよゝ）」。
- 執筆者懇談会31
- 日時：3月18日
- 主催：弊誌
- 場所：大津グリル
- 参加人数：11人
- 内容：40号「わかもの」

社会問題研修会Ⅱ

夢と未来を」の特集を決定、41号「しなやか」の内容を検討。若い人の活動を後押しする大人が必要であるという意見が一致した。



- 日時：3月23日
- 主催：真宗大谷派長浜教区第24組
- 演題：「もったいない、おかげさま、ほぐすやうに」
- 講師：森建司
- 会場：長照寺
- 対象：一般
- 参加人数：78人
- 内容：真宗門徒に向けて、「M・O・H」を語る。

滋賀地域力ネットワーク 第5回会議

幸せ社会学を求めて、昔帰りも大切に、経済は消費者も一体になった「地産地消」を原則とすべきと述べた。初のお寺での講演。

- 日時：4月18日
- 主催：仁連孝昭（滋賀県立大学副学長）、森建司
- 場所：滋賀県立大学環境共生システム研究センター
- 対象：ご賛同いただいた方々
- 参加人数：13人
- 内容：呼びかけ先を検討。行政にも積極的に関わってもらえるネットワークづくりを。
- 農業の六次産業化と「エツくり」
- 日時：4月24日
- 主催：立命館大学「明日の農と食を考える研究会」

- 演題：「M・O・Hの心で生きる幸せの道」
- 講師：森建司
- 会場：立命館大学びわこくさつキャンパス
- 対象：一般
- 参加人数：150人
- 内容：農業の六次産業化の最前線で活躍する2名の講演と立命館大学のSOFIXによる土作りについての講演。開会挨拶にてM・O・Hの心を話した。



- 福井県機工商組合総会記念公演
- 日時：5月9日
- 主催：福井県機工商組合

- 演題：「中小企業にしかできない持続可能社会の企業経営」〜共生経済社会への意識改革〜
- 講師：森建司
- 会場：ユアーズホテルフクイ
- 対象：福井県機工商組合会員
- 参加人数：約50人
- 内容：経営は「経営道」（人の道）、農業は「農土道」。経済合理主義だけではだめである。共生社会経済を促すため、地産地消を大事とする地域づくり、自立型地場産業起こしが中小企業にしかできない持続可能社会の企業経営と話した。

アグリビジネスカフェ

- 日時：5月29日
- 主催：一般社団法人バイオビジネス創出研究会
- 座長：森建司
- 会場：北ビッコホテル
- 対象：会員・一般

講演スケジュール

6月からの講演予定です。

■ NPO法人もつたいない学会 第一回評議会

日時：6月6日

主催：もつたいない学会

演題：「地域交流誌が導く地域の未来」

講師：辻村夢美

会場：東京大学本郷キャンパス山上会館

対象：会員

■ なでしこファーマーズ設立総会

日時：6月11日

主催：なでしこファーマーズ

会場：池田牧場香想庵

■ 記者講座

日時：6月14日

主催：富士通株式会社

演題：「やさしくふかくおもしく」

講師：辻村夢美

会場：県内小学校

対象：小学生

■ センコー株式会社総会

日時：6月21日

主催：滋賀経済産業協会

会

演題：未定

講師：森建司

会場：琵琶湖ホテル

対象：関係者

■ 経営者モーニングセミナー

日時：6月22日

主催：滋賀県倫理法人会・彦根市倫理法人会

演題：「ひまからでたまごと」

講師：辻村夢美

会場：彦根キャッスルホテル

対象：会員

■ 女性中央会しなや華塾

日時：7月2日

主催：しが女性中央会

演題：「M・O・Hの進化」

講師：森建司・辻村夢美

会場：新九州株式会社e.プラザ

対象：会員

■ 滋賀県立大学市民参加論

日時：7月5日

演題：「編集・取材を通して高める人間性」

講師：辻村夢美

日時：7月12日

演題：「持続可能社会の市民参加」

講師：森建司

会場：滋賀県立大学

対象：学生

■ 環人ネット総会

日時：7月27日

主催：NPO法人環人ネット

演題：事業規模3億円

NPOは「つくる」！

会場：滋賀県立大学

対象：会員・一般

■ 近江歴史回廊大学講座

日時：9月7日

主催：滋賀県文化振興事業団

演題：「いまどきの寺社」見聞

講師：辻村夢美

会場：大津市勤労福祉センター

対象：受講生

こんな見つけた*

美の滋賀 アートマップ



多様な滋賀の「美」の魅力をも「マンダラ」風に表現したアートマップ。表面には美しい滋賀の「美」の写真が並び、裏面にはそれらの紹介が記載されている。

発行：滋賀県
編集：アートマップ編集委員会
お問い合わせ先：(公財)滋賀県文化振興事業団
TEL.077-522-8369
無料で配付しています。

平和堂の「kikito」鉛筆

「平和の森づくり」活動を通じて、「びわ湖の森」の保全を推進する平和堂。この鉛筆はびわ湖の森産ヒノキ間伐材を使用している。(製造企画:kikito)

株式会社平和堂 <http://www.heiwado.jp/kikito>

もっくん君MORNING 手焼きクッキー

クリーム入り
かわいい牛の大きなクッキー。
食べるのがもつたいない!
販売元:有限会社 共栄物産 RK
〒682-0925 鳥取県倉吉市秋喜182-1



滋賀のええフォト☆コンテスト「よばれやんせ湖北賞」決定

滋賀県と「しがトコ」（滋賀の“ええトコ”を全国に発信するプロジェクト）が連携して行った「滋賀のええフォト☆コンテスト」。よばれやんせ湖北賞受賞作品をご紹介します。



- タイトル: 大根干し
- 投稿ネーム: 右近
- 投稿者コメント: 毎年この桜の木に大量に大根が干されます。これを見ると冬の訪れを感じます。
- 審査評: 「大根干し」の写真、懐かしさが漂います。背景の伊吹山もいい味が出ています。「食」が写された風景、美しいです。私たちは湖北の地産地消の産物を、生産者と消費者が交流する中で育てていこうとしています。（よばれやんせ湖北実行委員会）

- 賞品: 湖北特産品詰め合わせ
- 受賞コメント: この度は私の写真を選んで頂き大変ありがとうございます。これからも「滋賀のええとこ」をたくさん紹介してください。陰ながら応援しています。

「滋賀のええフォト☆コンテスト」受賞作品はこちら
<http://artmap.shiga-saku.net/e904084.html>

堀場製作所の新入社員研修

堀場製作所では、グループ合同の新入社員研修でヒマワリの種を植える活動をされています。場所は滋賀県高島市安曇川泰山寺にある「ソラノネ」の広大な敷地。満開のヒマワリの景色が心の中にずっと咲き続け、自分の支えになると共に、生まれてくる種が次世代に受け継がれるようにとの思いが込められています。

新入社員は90名。参加された方からは「楽しかった」「満開になるのが楽しみ」という声が聞かれました。活力溢れるヒマワリ畑へと成長する日が楽しみです。



**未来政治塾生×あったかファミリー運動コラボ企画
第10回東日本大震災あったか日本
(ファミリー)がんばろう!
チャリティーリレーコンサート**

- ◆日時／2013年9月22日(日)
13:30～(13:00開場)
- ◆会場／近江八幡市 G-NETしが 大ホール(滋賀県立男女共同参画センター)
TEL.0748-37-3751
- ◆入場料／無料
- ◆内容／ミュージカル「ワンダーワールド」
パネルディスカッション
パネリスト：嘉田由紀子(滋賀県知事)、鈴木充佐子(あったかファミリー運動代表)他
グループディスカッション 朗読、歌
- ◆主催／NPO 法人あったか演劇研究会あったかファミリー運動滋賀

**滋賀の未来戦略フォーラム2013
人口減少社会における豊かさとは
～住み心地日本一の滋賀を目指して～**

- ◆日時／2013年6月30日(日)
13:00～16:00
- ◆場所／男女共同参画センター(近江八幡市

鷹飼町)

- ◆内容／全体会 パネルディスカッション
草郷孝好氏(関西大学社会学部教授)、野田遊氏(愛知大学地域政策学部准教授)、嘉田由紀子(滋賀県知事)
分科会
①人口減少社会における暮らしの豊かさとは(講師 草郷孝好氏)
②人口減少社会における広域自治体のあり方(講師 野田遊氏)
- ◆参加予定人数 200人
- ◆申込み・お問い合わせ 滋賀県企画調整課企画計画担当
TEL.077-528-3312
e-mail:cu0003@pref.shiga.lg.jp

【NPO法人環人ネット総会講演会

- ◆日時／2013年7月27日(土) 15:00～
- ◆会場／滋賀県立大学(予定)
- ◆講師／石田達也氏(NPO 法人宮崎文化本舗代表理事)
- ◆テーマ／「事業規模3億円のNPO 活動はこうつくる!」(仮)
- ◆主催／滋賀県立大学近江環人地域再生学座、NPO 法人環人ネット

M・O・Hせんりゅう

- ♪おもいやり 創造力と 謙虚さで
- ♪おかげさま 言える心が 人つなぐ
- ♪ほどほどに 腹八分目で ダイエット
野洲市 小川 泰江
- ♪キラキラと 輝く情報 ありがとう
- ♪M・O・H通信 ワクワク出会いを ありがとう
長浜市 ケイミー 板山きよ美
- ♪子の巣立ち 多くの人の おかげさま
- ♪子が巣立ち 使う部屋へり 電気代うく
野洲市 田中 貴子
- ♪おかげさま もったいないね ほどほどに
野洲市 柳田 英代
- ♪手をあわす 毎日感謝 おかげさま
湖南市 増田 世津子
- ♪もったいない 昔の暮らし 戻りゃいい
長浜市 林 忍
- ♪ごみ一つ 地球の寿命 また減った
彦根市 原田 光毅

- ♪お引越し もったないと 荷が増える
- ♪おかげさま 孫と一緒に ニューヨーク(入浴)
- ♪孫もみて 年金受ける 歳に成り
- ♪ほどほどに 親のする事 子がまねる
- ♪ジャガジャガのむのも フォドフォドに
(小林旭さんの「自動車ショー歌」です。懐かしい車がたくさん登場します。)
長浜市 ペンネーム 伊香の退居男
- ♪エコ通勤 職場のみんなと 取り組みます
- ♪エコ通勤 今日も居酒屋 寄れますよ♡
甲賀市 清水 達也
- ♪放れ牛 こんな生活 だれがした
- ♪豊かさを 追い求めての 贅沢病
- ♪おかげ様 元気な証 親父ギャグ
- ♪あいまいな 基準値、風評 ほどほどに
- ♪愛煙家 身を粉にしても 世のために
長浜市 林 忍

「循環型社会を目指す～M・O・H通信～」の発行に当たって

代表 森 建司

20世紀型社会は経済至上主義の時代であった。科学技術の進歩とそれに伴う工業や流通の発展は、世界的なスケールで人々に物による恩恵をもたらしたが、同時にバランスのとれた自然との共生社会を破壊した。経済至上主義とは物の豊かさを最高の幸せとして捉え、その対極にあるものの価値をほとんど消し去ろうとするものである。人々の価値観を情報操作で画一化して、特定のものに集中させようとするマーケット戦略は個人の人生観、社会観にまで侵入し、その独自性、不可侵性まで奪って行った。このことによって人々は哲学的な意味の自己をなくしてしまった。

今こそ新しい時代として循環型社会を作ろうとしているわれわれは、自己を証明する心とか思いを取り戻さなければならぬ。死生観や人生観、先祖や子孫、生涯をかける志、自己を自己らしく生き抜くための人生哲学など。そしてそれは自然との共生社会を目指すものであり、人としての真の生き様を問うものであらねばならない。

この実現のために

「循環型社会を目指す～M・O・H通信～」を発行する。

《 M・O・H通信概要 》

■目的

- (1) 循環型社会構築に向けた意識改革
- (2) 浪費型社会通念の脱却
- (3) 人生哲学を学ぶ

■事業

- (1) 通信の発行及び出版
- (2) 講演会、勉強会、シンポジウムなどイベントの開催

■事務局

〒526-0111

滋賀県長浜市

川道町759-3

循環型社会システム研究所

TEL.0749-72-5277

FAX.0749-72-8681

e-mail:tsujimura@

shingoshu.co.jp

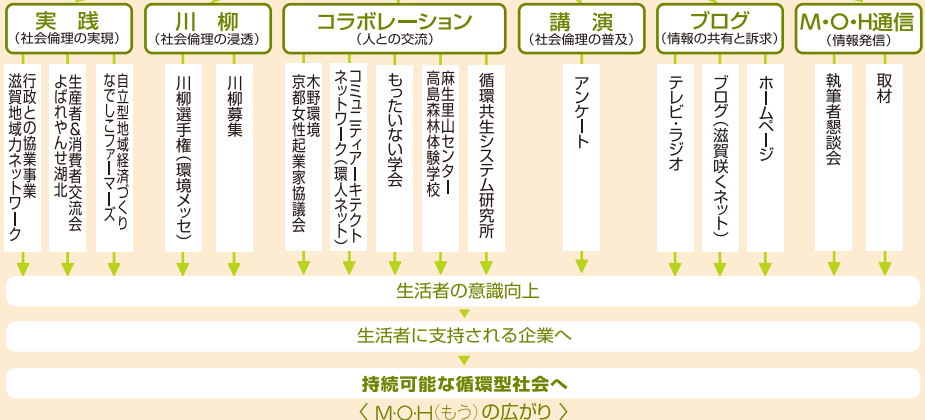
代表:森 建司

担当:つじむら ことみ

上岡 陸

[M・O・Hコンセプトシート]

M・O・H=循環型社会をめざす言葉
(もったいない・おかげさま・ほどほどに)



読者の声

★九州薩摩半島中部の山村で20年弱暮らすジエフリー・S・アイリツシュ著「幸せに暮らす集落」。平均年齢80歳の過疎地域での幸せはM・O・Hと通じるところがあつてです。

長浜市 田川 健吾

★3月の高月町長照寺での森先生の講演、感動しました。

長浜市 ベンネーム 伊香の退屈男

★ガツタリの記事が良かったです。「秋の詩」を載せていただきありがとうございます。

多賀町 中川 信子

★ガツタリの「誇り」と、自分たちでの思い、レジリアンス指標など、読みながら相槌をうつています。

近江八幡市 高尾

★39号トップページに掲載していただき、反響が大きいです。

多賀町 前田 善一

★座談会で東近江での取組を長浜でもやってみたりありました。長浜の人たちは、おおびろびにされていないだけで環境や地域力のポテンシャルは秘めていると思います。

長浜市 井関 豊

★「よばれやんせ」「よばれよか」、遠慮している人に対しては「だしかいね」などとなつかしい言葉を連想しました。

京都市 岸田 京子

★39号和りんごジャムが心に残りました。

長浜市 原田 桂

★ウツナイバル余呉さんでは焼畑農法による山ぶ栽培を復活。先日「よみがえりのレシカ」という映画で山形の農家の方が焼畑農法を守り、次に繋げようと努力なさっているのを見たところでした。よばれやんせ湖北、行きたいです。

佐倉市 平田 和子

★昨秋、雨森芳洲庵を訪れまして、平井館長のお話を聞かせて頂きました。雨森地区はとても静かで軒並みお花が植えられて美しい町で感動しました。

彦根市 井上 玲子

★ご活躍が文面&写真の面々からうかがえて嬉しくなっています！

草津市 高屋 佳典

★観山学園の環境講座のネタにM・O・H通信を使っています。

比叡山延暦寺 大角 実豊

★有志で立ち上げた勉強会、「経営の本質研究会」のメンバーに配布させていただきます！ありがとうございます。

千代田区 堀越 勝

★毎回、広い視野で取り組まれていて、活気を感じています。

長浜市 小西 光代

★ページを繰りながら食の写真に思わず美味しそうと言っていました。

竜王町 畑 裕子

他、多くの声をお寄せいただきありがとうございます。

《次号予定》2013年9月発行予定

■特集:「しなやか」

- M・O・Hな店/「正子さん手作りのおはぎ」宿谷正子
- 対談/「しなやかな経済とは？」大阪産業大学教授 花田真理子 + 森建司
- 取材/「和える(あえる)を会社にした女(ひと)」矢島里佳
- 寄稿/「ブータンに学ぶ 福井ブータンミュージアムと探るレジリアンス」
- 寄稿/「政所茶復活! 茶レン茶」の取り組み」山形蓮
- 取材/「自然エネルギーをつくって使おう」手作りミニ太陽光発電 鈴鹿カルチャーステーション

ほか

- 連載/通常通り

※敬称略、予告なく変更いたします

編集後記

- ★後輩が入社して1年が経過しました。若い吸収力はすごい。わかものが、希望を持っていない、若くない人が言いますが、若者に聞く不安はあっても、希望は捨ててないって感じがあります。私は、若者に期待します。……………(こと)
- ★情報社会といわれる今、リスクの情報も溢れていて最初から前に進めない若者が多い…と聞いたことがあります。リスクに立ち向かう勇気を持つために、子どものときから自然に触れ、よく食べ、よく眠る!それをまわりで支える大人が必要なんだと学びました。……………(ひとみ)
- ★錦市場にある「近江の館」に黒豆茶を買いに行ってきました。またお隣さんに「M・O・H通信」最新号を渡したところ、ご主人が「大感激!」とってくださいました。…(あや)

《M・O・H通信》受付中!

あなたも「M・O・H通信」を読んでみませんか。特典として、M・O・H通信、講演会のご案内をいたします。あなたの活動やこの通信についての、ご意見もお聞かせください。

お名前、年齢、郵便番号、住所、電話番号、

fax(あれば)、e-mailアドレス(あれば)、心に残った一言をご記入の上、お申し込みください。通信をお送りします。申込書をfax、郵送、mailでお送りください。

《M・O・H通信》申込書 0749-72-8681

フリガナ		年齢	希望冊数
お名前			
住所	〒		
電話	FAX	メールアドレス	
あなたの心に残った一言、MOH川柳をお書きください。			

※記入いただいた内容については、目的以外のことに使用または転用はいたしません。

キリトリ線

M・O・H通信 Vol.40(通巻41号) 2013年6月20日発行 発行部数6,000部

●編集・発行/新江州(株)

循環型社会システム研究所
M・O・H通信編集局

代表 森建司

編集長 つじむら ことみ

編集 上岡 瞳

校正協力 稲垣 重雄

取材 山崎 彩

デザイン 伊達デザイン室

写真 辻村写真事務所

諏訪 稔

印刷 ブランセル

ホームページ ブランセル

ブログ 滋賀・咲くブログ

●創刊/2003年3月度

●執筆者懇談会

内藤 正明 畑 裕子
海東 英和 堤 幸一
山田 朝夫 進 ひろこ
下西 康嗣 中村 誠
末永 國紀 笹山 千怜
花田 眞理子 結城 美枝子
弘中 史子 松崎 和弘
今関 信子 井上 昌幸
山崎 隆 辻村 耕司
三山 元暎 佐々木 洋一
加藤 みゆき 徳永 拓美
清水 安治 山口 美知子
檀上 俊雄 岡部 達平
森 孝之 豊田 一美
堀越 昌子 (順不同・敬称略)

●ご協力

滋賀県 滋賀県立大学
琵琶湖環境科学研究所 近江環人 地域再生学座
もったいない学会 NPO法人環人ネット
循環共生社会S研究所 野洲生活学校
高島森林体験学校 EEネット
麻生里山センター 中小企業家同友会
(順不同)

●支援

新江州(株)
〒5260111 滋賀県長浜市川道町759-3
TEL.0749-72-5277 FAX.0749-72-8681

★ブログ 滋賀・咲くブログ★
<http://moh.shiga-saku.net/>

★ホームページ★
<http://www.mohmoh.jp/>

MOH図書館

検索 

※記事中での写真・本文につきましては、無断転載を禁じます。